

平成27年度 文部科学省

「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」(学校を核とした地域力強化プラン)

土曜学習フェスタ 事業報告書

平成28年3月15日

株式会社キャリアリンク

《目次》

1. 土曜学習フェスタ 要綱	P. 1
2. 全体総括	P. 2
3. 各地区土曜学習フェスタ実施報告	P. 10
・土曜学習フェスタ in 高知	P. 11
・土曜学習フェスタ in 和歌山	P. 21
・土曜学習フェスタ in 豊橋	P. 29
・土曜学習フェスタ in 横浜	P. 41

1. 土曜学習フェスタ 要綱

1. 主旨

土曜日の教育活動を普及促進のため、全国で「土曜学習フェスタ」を実施。実施地域は、土曜日の教育活動を今後実施する計画にある地域とし、結果【高知市・和歌山市・豊橋市・横浜市】での実施。

2. 概要

内容は、第1部は子ども達を対象とした「土曜日の教育活動」、第2部は地域の方（教員、保護者、企業・団体等）を対象とした内容となり、自治体や学校とのニーズに沿い、パネルディスカッションやワークショップ等を取り入れた。詳細は以下の通りである。

	高 知	和歌山	豊 橋	横 浜
日時	2016年1月23日(土)	2016年2月6日(土)	2016年2月13日(土)	2016年3月12日(土)
会場	高知市立潮江中学校	和歌山市立高松小学校	ミナクル (大清水まなび交流館)	横浜市立南高等学校 附属中学校
特徴	中学校1校で実施。 キャリア教育の機会として、土曜授業。	小学校1校で実施。 保護者や地域の方も巻き込んだ土曜の課外授業。	中学校区（小学校4校、中学校1校）で実施。公民館を使用した土曜学習。	中学校1校で実施。 年間カリキュラムに組み込まれた中での土曜授業。
第1部： 土曜日の 教育活動 ¹	【土曜授業】 ・中学校1年生 職業講話 ・中学校2年生 キャリアチャレンジ ・中学校3年生 高校生からのメッセージ	【土曜講座】 ・小学校1～6年生 希望者 地元企業や団体等が出す9ブースに子ども達が分かれて講座を体験	【土曜講座】 ・小学校1～6年生 中学校1年生 希望者 地元企業や団体等が出す8ブースに子ども達が分かれて講座を体験	【土曜授業】 ・中学校1年生 ポスターセッション ・中学校2・3年生 研究発表
第2部	【パネルディスカッション】 テーマ 「地域・社会とつながるキャリア教育」 ～土曜日の教育活動の可能性を探る～	【もちつき大会】 ～みんな総出の新春祭りだ！！～ 【ワークショップ】 テーマ 「学校を核とした地域の教育力について」	【パネルディスカッション】 テーマ 「地域の子どもは地域で育てる」 ～豊橋市のこれからの教育について～	【事例発表】 4団体による発表 【特別鼎談】 「地域に開かれた学校のために」 ～学校教育・社会教育におけるカリキュラムマネジメントの重要性～

¹ ※各地区での実施内容については、【3. 各地区土曜学習フェスタ報告】内にて掲載

2. 全体総括

□土曜学習フェスタ「第1部」実施実績

土曜学習フェスタは、「土曜日の教育活動」の普及・啓発のため、各地区の子ども達や地域の方々を巻き込んで実施した。本イベントを4回開催するにあたっては、各地区の学校や教育委員会との連携を行い、「土曜授業」「土曜の課外授業」「土曜学習」の3つをそれぞれの地区で実施しており、希望者を募集した和歌山・豊橋では教育委員会や学校の協力もあり、和歌山市では216名、豊橋市では162名の参加となった（全体に対して、約28%の参加者である）。

【参加者数 4日程のべ 児童／生徒数：1,304名】

地区	合計	児童	生徒
高知	447名	***	447名
和歌山	216名	216名	***
豊橋	162名	152名	10名
横浜	479名	***	479名
合計	1,304名	368名	936名

□土曜学習フェスタ「第2部」実施実績

前述の通り、土曜学習フェスタでは第1部は児童・生徒向けの内容で、第2部は地域の方向けの内容であった。土曜日の教育活動の意義を理解していただけるよう、地域の状況に沿って、パネルディスカッションやワークショップ、鼎談等を実施。横浜市では、全国から視察者がやって来ること、集大成であることから、土曜日の教育活動を実施する団体に事例発表を企画した。

【参加者数 4日程のべ人数：203名】

地区	合計	教育委員会・教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
高知	31名	15名	9名	5名	0名	2名
和歌山	57名	12名	8名	21名	2名	14名
豊橋	98名	31名	5名	1名	3名	58名
横浜	17名	4名	8名	2名	1名	2名
合計	203名	62名	30名	29名	6名	76名

(アンケート内容より抜粋)

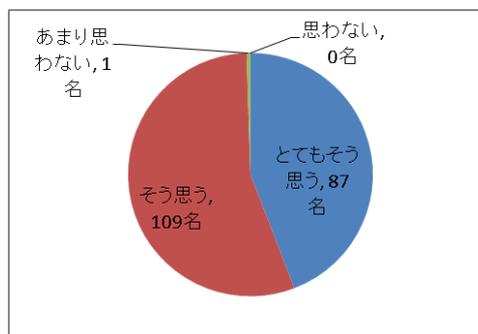
<アンケート内容>

第2部への参加者へは、「土曜日の教育活動」についての理解度の把握や土曜日の教育活動の課題を把握するため、アンケートを実施した。ここでは、土曜学習フェスタ全体の結果を掲載する（各地区でのアンケートについては、「各地区土曜学習フェスタ報告」にて掲載する）。

● 「土曜日の教育活動」の理解について

- 「土曜日の教育活動」には①土曜授業、②土曜の課外授業、③土曜学習（教育委員会の管理下／NPO等民間活動）など、さまざまな形態があることがわかった。

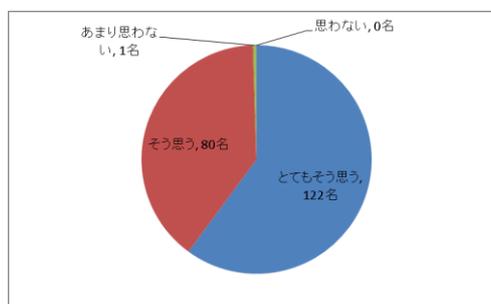
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	87名	27名	15名	12名	1名	32名
そう思う	109名	31名	15名	17名	4名	42名
あまり 思わない	1名	0名	0名	0名	1名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	197名	58名	30名	29名	6名	74名



● 「土曜日の教育活動」の意義について

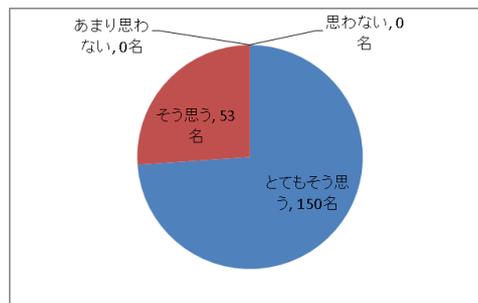
- 学校、家庭、地域が連携協力することで多様な教育の場が生まれると思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	122名	34名	15名	20名	5名	48名
そう思う	80名	27名	15名	9名	1名	28名
あまり 思わない	1名	1名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	203名	62名	30名	29名	6名	76名



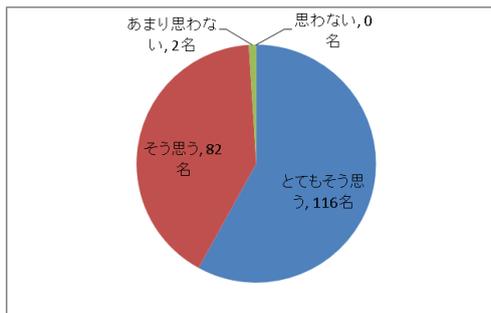
- 地域や企業が学校で出前授業等を実施することは、子どもたちの学びに有効だと思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	150名	41名	21名	23名	6名	59名
そう思う	53名	21名	9名	6名	0名	17名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	203名	62名	30名	29名	6名	76名



- 地域全体で子どもたちを育むために、今回のような取組みは今後も必要だと思う。

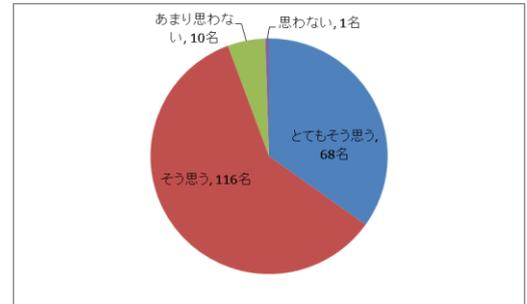
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	116名	31名	18名	18名	4名	45名
そう思う	82名	30名	12名	11名	2名	27名
あまり 思わない	2名	1名	0名	0名	0名	1名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	200名	62名	30名	29名	6名	73名



● 「土曜日の教育活動」への協力について

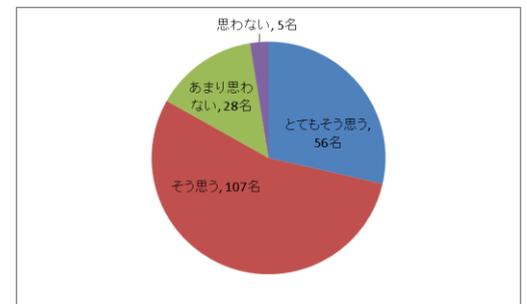
- ・学校から要請があれば、自分もできることから「土曜日の教育活動」に協力したいと思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	68名	15名	12名	15名	1名	25名
そう思う	116名	31名	18名	14名	5名	48名
あまり 思わない	10名	4名	0名	0名	3名	3名
思わない	1名	1名	0名	0名	0名	0名
合計	195名	51名	30名	29名	9名	76名



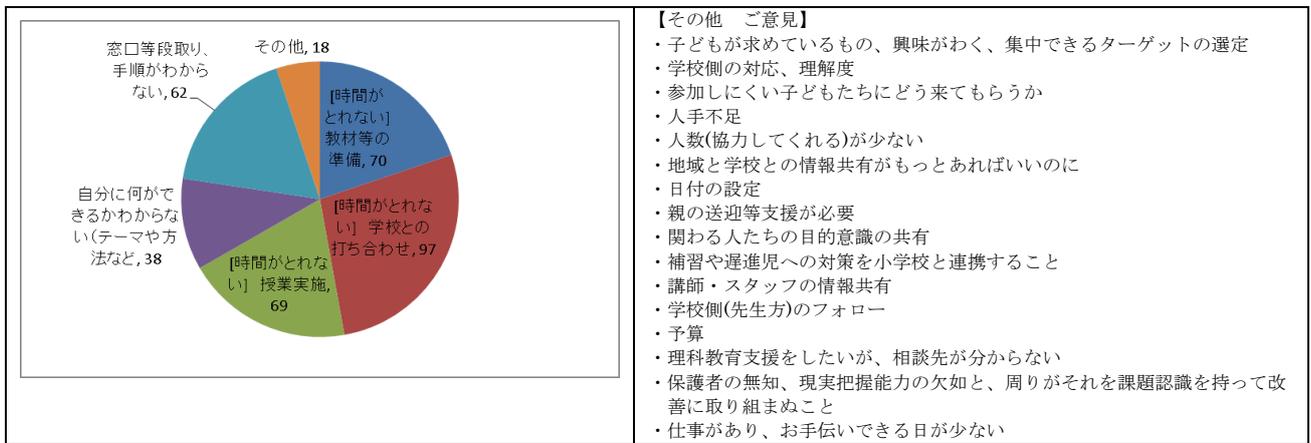
- ・学校から要請があれば、自分も「土曜日の教育活動」の講師ができる分野があるかもしれないと思った（スポーツ、書道、料理など）。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	56名	9名	9名	5名	1名	32名
そう思う	107名	30名	18名	13名	4名	42名
あまり 思わない	28名	18名	2名	7名	1名	0名
思わない	5名	2名	1名	2名	0名	0名
合計	196名	59名	30名	27名	6名	74名



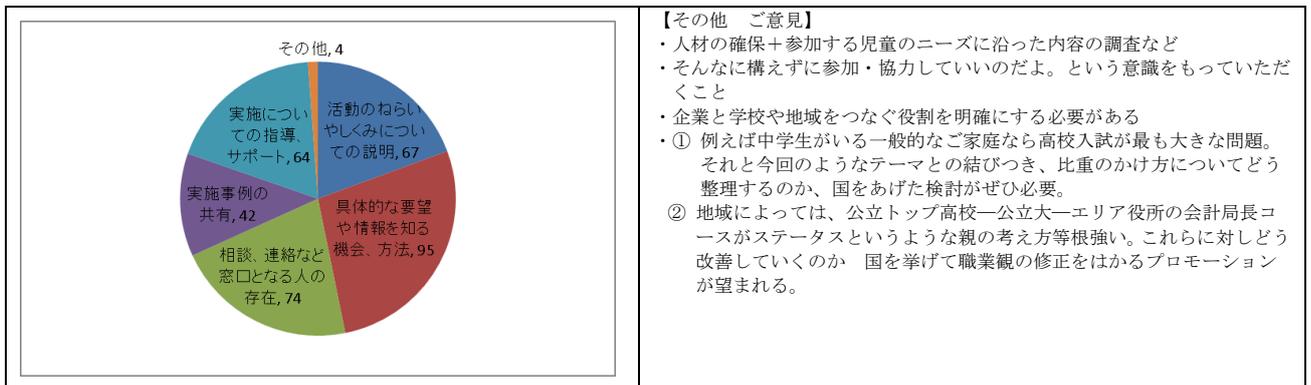
・「土曜日の教育活動」への協力について、課題となることは何ですか。（複数回答可）

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
[時間がとれない] 教材等の準備	70	27	7	6	4	26
[時間がとれない] 学校との打ち合わせ	97	31	11	15	2	38
[時間がとれない] 授業実施	69	26	9	13	2	19
自分に何ができるかわからない (テーマや方法など)	38	16	5	11	1	5
窓口等段取り、手順がわからない	62	21	6	12	1	22
その他	18	4	2	7	1	4
合計	354	125	40	64	11	114



・「土曜日の教育活動」に協力いただくために、必要な情報やしくみは何ですか。（複数回答可）

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
活動のねらいやしくみについての説明	67	26	7	6	3	25
具体的な要望や情報を知る機会、方法	95	28	12	15	3	37
相談、連絡など窓口となる人の存在	74	27	14	12	3	18
実施事例の共有	42	17	8	11	1	5
実施についての指導、サポート	64	19	8	13	0	24
その他	4	3	0	1	0	0
合計	346	120	49	58	10	109



●今後、「土曜日の教育活動」に期待することやご意見等をお教えてください。

- ・中学校の行事、地域の行事互いの行事の把握が大切で生徒が実際に参加することが重要。参加しないと地域の方々とのふれあいは生まれません。
- ・子どもたちにとっては、かけがえのない1日を大切にしたいと思います。
- ・小・中・高と連携し、一貫したキャリア教育のできる日が来る事を楽しみにしています。大学生・留学生や企業との相互利益を教える事で、色々な事に挑戦できると思います。
- ・まずは認知を広げること
- ・偏差値による選定、前の中学教育において多様性を持たせる学習は有意義だと思いました
- ・いろいろな人たちと生徒（子どもたち）が関わることはとても大事だと思います。いろいろな活動ができるとよいと思っています。
- ・本物体験
- ・たくさん地域でこのような活動がおこなわれることを願います。
- ・親子だけでなく地域との交流
- ・子どもの頭を育ててくれることを期待します！！
- ・地域の子どもの“育ち”のために学校の学びではできない体験やふれあいが生まれる場所であってほしい
- ・有資格者の講演会
- ・学校・地域・各企業が協力しあって開催された事 どうもありがとうございました
- ・子供のいろいろの才能を伸ばすこと。色々な知識を身につけさせることを行ってほしい
- ・ふだんの生活ではありふれることのない体験を子供たちにさせられる企画を提案していきたいです
- ・地域の人のつながり
- ・地域の協力なくては、土曜日の活動は成り立たないのだからとかんじました。多様な体験や地域とのつながりが、保護者にとっても大切なかなと感じました。
- ・是非、実現したい(昔あそびを)
- ・いろいろな実施例を知ることができてとてもよかったです。予算や人手、準備等クリアできれば高松地区でももっといろいろなことにチャレンジしていきたいと思いました。
- ・地域広報の手段
- ・多くの地域の方と子ども達の交流できること
- ・先生方々だけの場かと思ったので、参加できた事よい場だと思いました。
- ・地域や、伝統を大事にする活動が必要なのは
- ・大切な活動です
- ・地域の人と子どものかかわり。
- ・地域教育は必要だと思いますが学校をベースにすることはパワーバランスが学校に片よってしまう恐れがあると思う。コーディネートは学校でなく行政が良いと思う。
- ・子どもたちが目を輝かせて活動できる内容を提供してほしい。
- ・ミナクルを使っていつも何か講座が開設されており、興味をもった子どもが自由に参加できるようなシステムができるといいかな。自由参加ができる講座があるといいと思いました。
- ・人と人との心のふれ合いが大切だと思いました。
- ・教員の中で“あくまでボランティア”としてコーディネートのお手伝いすることへの認識の差はどうしても出ると思うのだが、その辺りの理解を求める求め方は難しいと感じます。
- ・参観・見学させていただいて、子どもたちの表情が明るかったことが印象的でした。今後も参加者を増やすには保護者へのアピール・必要性の理解などさらに啓発がいると思います。教育関係者と家庭の温度差をうめていくことが課題だと感じています。
- ・継続するための工夫、取り組みが大事だと思います。今後もサポートをお願いしたい。
- ・多くの企業の参加。豊富な講座。
- ・市民館だけでなく、学校という施設も利用できるようなことを望みます。
- ・今回は参加費無料の点での盛り上がりもあったと感じた。今後のかかる費用(経費)の問題をどうするかが気になります。
- ・窓口となる人の存在(コーディネーター)が一番。学校が教育目標、計画に沿った率直な申し出(依頼)をすること。できるところから全校でやっていく。
- ・市民館を土曜を含め日曜日にも子どもが“行きたい！”と思う企画を早急に企画したい。Cブロックの「七つ星」は先鞭。
- ・人間性豊かな子どもを育てるものであってほしい。(ただ楽しかったにおわらないように)
- ・次世代教育は大事な事と思っています。又、この様な活動を定期的に活動の場を設けていただければと思う！！
- ・学びたい県の回数増加。
- ・大切な事はよくわかります。参加者の確保をどう継続していくか。
- ・教育活動の内容と参加対象者の範囲。希望者のみ？
- ・教育の格差の視点は参考になった→体験の格差をうんでいることに着目⇒(本物実物、実体験)。地域のいきいき講座は、これからどうしていこうかな。
- ・豊かな学びができる活動をこれからも用意して頂けるようお願いいたします。
- ・専門的な知識をもつ企業の方に講座をもって頂くことは、キャリア教育の面からも非常に大きな効果があるように感じました。
- ・参加する児童を多くし、体験の機会をふやしたい。
- ・学校生活だけでは体験できないような活動を、子どもたちがとても楽しんで参加していて、今後ももっと、今回のような機会が増えていけばいいなと思いました。
- ・もう少し都心部で開催してはどうか。
- ・自分の地元では無かった学習形態だが、帰っていく児童の様子を見ると非常に有意義な学習であったと思うので、日本全国に広がっていくと思う。
- ・今回のような活動が豊橋だけでなく愛知県、全国に広がること。
- ・子供達も地域の事をより多く知る必要がある。子供も家から出掛ける事に楽しみをもつようになるといい。昔は町内に色々な工場作業場があったので自然に知識を得た。地域活動に魅力をもつように。その代理に今日の様な講座が必要かも。
- ・いろいろな活動ができると思うが、予算が必要な場面ではどう補助していくのか？
- ・人を集めてセッティングされた講座をこなすだけでは限界がある。適切な環境を与え、子どもたちからの自主的な活動意欲・発想などが育つような活動が望ましい。
- ・広がりのあるシステムの構築ができるよう期待しています。
- ・企業や農協なども協力してくれてありがたい。
- ・「土曜日の教育活動」が当たり前になってほしい。子どもだけでなく実施する人間にも学べる場になってほしい。
- ・地域の学校として学校・地域が同じレベルで取り組むこと。
- ・特にありません。
- ・学校開放は良い。教育活動に直結するものがあるとよい。市民館でできるものをひんばんに。

- ・地元企業をうまく動かす仕組みやアイデアが必要だと感じました。
- ・やる気のある人がスムーズに活動できる流れを情報発信しているといいと思います。
- ・体験活動と学習活動を効果的に実施できるとよい。
- ・地域とのかかわりがこれからさらに密接なものになる。
- ・今後も子どもたちの学ぶ体験ができる場が多く必要になると思うので、継続して欲しいと思いました。
- ・やはり、子どもたちも「知らない先生」や「知らない人」(大学生など)に話しかけられるよりも「知っている先生」に話しかけられる方が安心するだろうし、何よりも安心して学ぶことができると感じました。私たち大学生が話しかけてもなかなか「あいさつ」や返事、反応ができない子もいらっしやっただが「知っている先生」が話しかけたら笑顔で「できたよ!」と返事していました。子どもたちも「知らない人」や「社会のいろいろな人」と関わるのはとてもよいことですが、やはり、「知っている先生」や「おうちの人」などがいっしょに参加することで、よりよい学びになるのではないのでしょうか。(というより、講師やボランティアの負担を減らす必要がある。まだ講師等の負担が大きすぎる感じを受けました。)
- ・新しいこと、新しい出会いを子どもたちに提供するのはとてもすばらしいと思うが、それをするためのファシリテーターが必要だと感じた。
- ・教育委員会や学校が主体となって、「土曜の教育活動」を推進しているのは学校教員の負担が大きく、本来の学校教育活動に支障をきたす心配がある。地域が体制づくりをして進めていくべきである。
- ・子どもたちが達成感を得ることができるものを用意して欲しい。
- ・はじめは強制でなく、ゆっくり浸透させていくべきだと思う。
- ・今後の継続的な取り組みに期待しています
- ・小学校ばかりでなく、もっと幼少期からの社会教育の開始できるようにすべき。もっと情報(興味を持たせるよう提供の仕方を工夫)を提供すべき。
- ・土曜日を使って地域の子どもたちを育てることは今の大きな課題だと思う。一方で地域住民や保護者に温度差があるものも事実。推進するうえで無理があってはならない(無責任であってはならないと強く感じる)
- ・週5日制になり、土曜日の過ごし方が多様化し、習い事やスポーツチームの活動が固定化している家庭や子ども達の扱いはどうなるか? 全員参加では無理だと思うが、自由参加になるといつも決まった子どもしか参加しないという現象もおこるのでは?
- ・土曜日と限らず、いろいろな職業の人を招いて話を聞かせてもらいたい。
- ・教科外のテーマをもとに、子ども達の視野を広げるプログラムを期待しています。福島県いわき市では、土曜学習が指定された学校において行われています。コーディネーターが公民館の館長さんが行っているため、ニーズにばらつきがある。
- ・土曜学習応援団に参加しており、支援活動をしたいが、相談するコーディネーターがどこにいるのか分からず何も進展しない。
- ・より多くの学校で実施をして欲しい
- ・南高校長から「横浜は国際貿易港として」とお言葉ありました。今後、海運関係と連携していけたらと期待します。
- ・学校教育・社会教育の垣根を取り払った包括的な取り組みを期待しています。
- ・私は建設会社の社員ですが、ビルやインフラ建設に限らず、ものづくりに興味を持つ若者が減っており、危機的状況です。ものづくりのやりがい、楽しさを学べる場にもしていただきたい。
- ・糸のこ工作のすすめ 電動工具ではありますが、すべての小学校の図工室にあります。一人一台にすると、1時間でも2時間でも座って取り組むので、極めて安全です。4年間毎週水曜日に指導しましたが、事故はゼロ。小黒三郎さんの図案を使うと喜んで取り組みます。小黒さんとはおつきあいをさせてもらっていますが、積極的に協力したいとのことでした。
- ・親が通常の中学生生活(学習含)では知り得ない、生きた情報、学習を期待します。
- ・必要だと思う。なぜ土曜日なのか、土曜日だからできることは何か、もう少し土曜日の価値を見出したいと思いました。何かありそうなんです。自分でもまだ見つけられていないというか、単に「使える時間が増えた」ではもったいないような気も…

●その他、本日ご参加されてのご意見、ご感想等、ご自由にご記入ください。

- ・子どもが大人になっていく中で、課題解決力をしっかりつけて欲しいと思いました。
- ・土曜日を地域としても活性出来る様になればいいと思いました。
- ・どんどん協力したいです!
- ・参観させていただき、学校の様子を見させていただき、とても落ち着いていて、子供たちの様子もすごくよく熱心に授業を受けていました。本当に良かったです。ありがとうございます。
- ・家訓作り、とても参考になりました。ありがとうございます。
- ・楽しい会でした。色々な意見を聞いて今後の土曜日の活動が楽しみになってきました。
- ・子どもを育てるは「学校だけ」「家庭だけ」ではなく、地域・家庭・学校どれもが大切であることを今日あらためて感じる事ができました。
- ・楽しかったの一言だけです!!
- ・引き続き開催して下さい
- ・本日はどうもありがとうございました
- ・色々参考になりました
- ・他の学校の活動の話が聞けるためになりました。もっと色々なことをやってみたいです。
- ・同じグループの教師の方のレベルの低さにうんざりした!
- ・たくさん企画を見学させていただいてとても勉強になりました
- ・とても勉強になりました。ありがとうございます
- ・とても参考になりました。来年度は、もっと活動をふやしていきたいです。
- ・情報公開をしっかりとして広く知ってもらえるようにしたいと思います。
- ・今日は、参加して良かったです。今まで、和歌山市の自分の住んでいる地区以外の取り組みを聞いたことがなかったので、他の地域のお話も聞いて良かったです。
- ・大変勉強になりました。和歌山市内でも地域地域でいろいろ考えられて実行されていることをしりました。ありがとうございます!
- ・子供も大喜びでとても良い半日でした。
- ・ネタがマンネリになることが問題であったが、色々なアイデアや取り組み方の違いなどがわかって良かった
- ・ワークショップで様々な意見交換ができ、大変興味深かったです。
- ・地域・保護者・教育関係者、三社これからは連携できる事を願います。
- ・地域の方々の意見を聞く機会になり、良かったです。
- ・学校・保護者・地域住民、皆それぞれの立場で子ども達を育てていく思いや方法を少しでも共に語れる場が作れたことは有意義でした。今後も継続して行って下さい。
- ・子供の意見、ステキでした。
- ・他のブースに参加したい子もあつたと思うので、小出しに実施する形でもよい。
- ・とても素敵な会でした。
- ・継続と他への広がり
- ・今日、子どもが粗暴なことをしていたとき地域の人は声をかけず、市の方が声をかけてもきかず、教員の言うことはきいた。だれとの関わりも大切にできる教育力が必要。
- ・地域グルミの教育システムの意義を共有するのにとても良い機会でした。もっと多くの方に聞いていただきたい。

- ・教育長の経済力に左右されない学びのチャンスを作るという言葉に感動しました。
- ・細かなところまで気配りがされていて、とても充実した会になっていたと思う。
- ・子どもたちは、楽しいいきいきと活動していました。学校ではできない体験や一歩踏み込んだ体験をしていて良いなと思いました。
- ・子どもは体験は必要です。安全面を抑えつつ、どんどん増やしてほしい。
- ・学校の教員(管理職)は転勤があり、短所でもあるが、いつか長所に転ずることを願う。
- ・地元の小中学校に登録されているコーディネーターの名簿がほしい。今後コーディネーターの発展を旺盛したい。自治会への協力要請も大切。
- ・子供が予想以上に意欲的であった。
- ・企業の学習プログラムが感心させられた→情報の共有。
- ・パネルディスカッションへの参加によって、どんな考えや思いをもってこのイベントが用意されたかを理解できて良かった。子供たちが良い体験の機会を得られて良かったです。子供のためになる活動をボランティアとしてやって頂きありがとうございます。
- ・植田の桜プロジェクトの様に子どもの主体的な動きを導き出す校区の人々との関わりを作り出す活動に対するご努力に敬意を表します。土曜学習フェスタのチラシの中の「第1回目」「第2回目」の表紙は改めてほしいです。(1回目 or 第1回)
- ・このような場で講師という貴重な体験をさせていただきまして、本当にありがとうございました。子どもたちが生き生きとしていて、とても素敵な活動でした。もしまた機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたいです。
- ・本当にありがとうございました。
- ・多くの子供たちとふれ合い、多くの笑顔を見ることができ、力を分けてもらうことができました。地域と教育との交流は必ずどちらにとってもプラスになることだと思いました。
- ・様々な体験をしている子ども達の様子を見て、より今回のようなフェスタが続いてほしいと思った。
- ・とても参考になりました。
- ・先生も同様に数日はボランティアで活動してもらっては。加藤教育長のお話良かった。これからのめざすものよくわかりました。
- ・土曜日に出たくても送り迎えしてくれる大人がなくて出れない子供がいるのでは？とちょっと心配しました。
- ・子どもたちのいきいきとして表情が印象的でした。
- ・保護者の方も含め挨拶の返答が少なかったように思った。こういったことも扱っていいと思う。学校では時間の都合上扱えないことを学べる場になってほしい。
- ・今回は打ち上げ花火にならないことを望む。
- ・とてもよかったです。ありがとうございました。
- ・運営スタッフの方がよく打ち合わせをされていてとても楽しんでいました。
- ・現状を知ることができてよかったです。
- ・子どもたちの笑顔が増えるのでとても良い活動であると思う。ただ、準備がしっかりできていないと難しい。
- ・これから教育に関わっていくにあたって自分の考えの幅を広げるいい機会になった。
- ・子どもの貴重な体験になるのだと実感しました。アクティブラーニングとしては地域との連携した取り組みは素晴らしいものだった。
- ・子ども達が授業がよく分からない、集中できないなどの時に講師は一般の方なので(教育のプロとは限らないため)先生方のフォローがないととても厳しい。
- ・一日のイベントとしては良かったと感じた。子ども達はとても楽しそうに活動していた。若手のスタッフも貴重な経験になったと思う。ただ、関わる人たちの多さには驚いた。長続きする取り組みとはならないと残念ながら強く感じた。
- ・時間にあまり余裕がないと感じた。
- ・土曜日の活動に対する子どもたちの障害保険の問題など、実施に際しては表面から見えない様々な課題はあると思う。それらの対応についても触れてもらえるよかったです。
- ・とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・チーム学校の事例を具体的にどのようなタイミングでどんなアポイントの仕方で運営しているのか知りたかった。貴重なお話ありがとうございました。
- ・富士通さんの発表についても資料があるとよかったです。フォーラムのねらいと発表内容の結びつきが薄い印象をうけました。
- ・学校現場が社会に開かれた教育を目指している現状が良く分かった。
- ・参加してとても良かった。
- ・ありがとうございました。
- ・第一部に参加して 久しぶりに「総合的な学習の時間」に参加しました。1年生では、3組8班の「三つ池と二つ池の違い」の発表に長くいました。母校である末吉中学校の隣にある三つ池と同じ鶴見区にある二つ池を比較するという発想が私に全くなかったのでとても興味深く聞きました。兵庫県神戸市の「玉一アクアリウム」の子どもたちが、20年近く外来種の生物を駆除し、在来種主体の環境にもどってきたという報告を聞き、外来種の駆除は必須と結論づけていたのですが、積極的に駆除をしている三つ池より、ほったらかしの二つ池の方が在来種が多いという結果は意外でしたが、示唆に富んだ調査でした。3年生では、「横須賀に人を呼び込む為に私達が出来ることは何か」の論文に感心しました。横須賀市が人口減少率日本一だということを初めて知りました。それに対し、佐藤さんは打開案いくつかのアイデアを提案しています。私が特に驚いたのは「貸し漁場」という全く新しいアイデアです。私はその場で検索してみましたが、同様の活動は見当たりませんでした。「貸し農園」から発想を得たと書いてありますが、すごい！第二部に関連して 教員時代の平成5年頃、東京都が教員の自主研究を対象に助成制度があったので、「昭和50面台の教員が社会貢献した事例」を調査、報告しました。具体的には当時の教員が上の命令ではなく、自主的に在籍学校に少年サッカーチームを組織し、近隣の小学校同市で試合を通して技術を高めあったのです。そして週休2日制が定着すると、主体は地域の親たちにバトンタッチされます。私は土日に野外体験や農業体験する方に力を入れていたのですが、あの当時の教員の頑張りがあったので、今のアリーグの盛り上がりがあるのは確かです。各市に2, 3人個人で大型バスを購入し、自ら運転して子ども達を試合に連れて行く教員もいました。今は全く見られないのは地域へのバトンタッチが完了したことと、教員自体に時間の余裕がなくなったことが大きいと思います。
- ・当社は社外学習の場として建設現場を提供していきたいと考えておりますので、参加者を募る場としても土曜学習応援団を活用させていただきたいと思います。
- ・ミサワホームや富士通のお話は興味深かったです。鼎談は改めてこの学校の在り方を知ることができ、この学校で学べることをとても有難く思います。コミュニケーション、社会性、そして9教科のバランス良い学習は他の公立にない良いと思いました。
- ・カリキュラム化 カリキュラムの精度、やはり大事だと思いました。あとしくみづくり。教育改革のとらえ方、全体像の把握。

(講評)

土曜学習フェスタでのパネルディスカッションやワークショップ、鼎談などを通じて、「土曜日の教育活動」の理解や意義については「とてもそう思う」「そう思う」の回答は95%以上となり、「土曜日の教育活動」の必要性は参加者に理解していただけたようである。

しかし、「土曜日の教育活動」への協力については、「あまり思わない」と答える人が全体の5%となっている。「時間が取れない」「窓口などの段取りや手順」などの理由が挙げられているが、ほぼ同じ割合であった。その改善のためには、「具体的な要望や情報を知る機会、方法」が必要と答える方が約30%、「活動のねらい

やしくみについての説明」「相談、連絡など窓口となる人の存在」「実施についての指導、サポート」と答える方は約 20%となっており、「土曜日の教育活動」を進めていくための制度化をしっかりと行う必要がある。

今後、地域学校協働本部を設置するなど、地域と学校の協働体制の構築は重要なテーマとなるが、地域と学校がつながろうとする具体的な動きがなければ、両者は歩み寄るきっかけが生まれず実施に至らない。

今回、土曜学習フェスタを実施した地域は、これから地域連携を進めていこうと考えている地域での実践となり、それぞれの地域で気づきを得たといえる。

高知市立潮江中学校は、数年前から地域連携を本格的にはじめ、地域の社会人と関わるためのキャリア教育（キャリアチャレンジデイ）を開催した。社会とつながることについては、教員も意義を感じ、授業内容をブラッシュアップするなど、学校自体が地域とつながることの意義を感じ始めている。

和歌山市立高松小学校は、10年前から子どもセンターが設置され、土曜講座が各地で展開していた。しかし、マンネリ化という課題が浮上し、新たな取り組みが必要となる中で、土曜学習フェスタを実施。これまでの取り組みに加え、企業による活動も実施され、もともと地域の方々との連携が強い地域だったことに加え、新たな学校—企業という連携が生まれた。

豊橋市では、教育長の教育ビジョンに沿って地域教育ボランティア制度が誕生し、次年度以降本格化する動きとなっていたが、今回の土曜学習フェスタはその一歩と言える。もともと小学校や中学校は、工場見学等の連携はあったものの、企業が主体となって土曜日の教育活動としての講座を開くことは少なく、地域教育ボランティアによる講座が主であった。この土曜学習フェスタをきっかけとして、企業との連携を今後の土曜日の教育活動に活かす予定である。

他の3地域とは異なり、横浜市立南高等学校附属中学校では、土曜日の教育活動が系統立てられており、「社会に開かれた教育課程」を体現しており、他の学校におけるモデル校となった。学校教育と社会教育が連携している学校として、カリキュラムマネジメントや長期契約、ノウハウの構築等、成功の秘訣について、地域と学校がつながる上での成功事例として示唆に富んだ内容であった。

地域と学校がつながる教育を進めていくためには、土曜学習フェスタなどのイベントを行うことだけでなく、その後の活動をサポートし、その地域が自立的に運営できるようなマニュアルや土曜日の教育活動を理解できる動画のような可視化されたツールが必要であるだろう。今後の調査では、土曜日の教育活動の理解を促すための教材作りに力を入れる必要があると思われる。

各地区土曜学習フェスタ 実施報告

3. 各地区土曜学習フェスタ 報告

■土曜学習フェスタ in 高知

【概要】

日時	平成 28 年 1 月 23 日（土） 9:50～14:20	
会場	高知市立潮江中学校	
対象	第 1 部：中学校 1 年生～3 年生 第 2 部：教員、保護者、企業・団体、教育委員会	
目的	1) 全学年のキャリア教育に関する土曜授業の見学を通じて、 地域・社会参画型キャリア教育について知る 2) 鼎談や交流会等を通して、土曜日の教育活動の理解向上・普及啓発を図る	
	時間	内容
第 1 部	【5 時間目】 13:30～ 14:20	【職業講話】 1 名の職業人（高知新聞社）より中学 1 年生に対して、職業講話。職業についての理解を深める。 2 年生で実施される職場体験学習での心構え等についての講話（※4 クラス合同で実施）
	【2・4 時限目】 9:50～ 12:25	【キャリアチャレンジデイ】 協力企業 9 社の企業講師より、中学 2 年生に対して「意志・役割・能力」の 3 つの観点からの講話と、生徒はインタビューを実施。5 月に職場体験を実施しており、本授業では「多様な職業におけるその職業の役割」「職業における必要な能力と職業観」を醸成することをねらいとしている。 生徒たちは事前に興味のある 3 企業/団体を選び、各教室でトークセッションに参加する。 3 回のトークセッション後は、グループに分かれ、自身が参加したブースの内容を共有・ふりかえりを実施。
	【5 時間目】 13:30～ 14:20	【高校生からのメッセージ】 本校出身の高校生 4 名が 4 クラスに分かれて高校生活等についての実情を聞く。生徒たちは、先輩の高校生から高校生活の実情を聞くことによってこれからの進路選択や残りの中学校生活をどのように過ごしていけばよいのかを考える機会となる。
	【5 時間目】 13:30～ 14:20	【高校生からのメッセージ】 本校出身の高校生 4 名が 4 クラスに分かれて高校生活等についての実情を聞く。生徒たちは、先輩の高校生から高校生活の実情を聞くことによってこれからの進路選択や残りの中学校生活をどのように過ごしていけばよいのかを考える機会となる。
第 2 部	【6 時限目】 14:30～	【パネルディスカッション】 「地域・社会とつながるキャリア教育～土曜日の教育活動の可能性を探る～」 <登壇者> ・文部科学省社会教育課 渡辺栄二室長 ・高知市教育委員会 教育次長 土居栄一氏 ・高知市立潮江中学校校長 坂本昌二先生 <コーディネーター> ・株式会社キャリアリンク代表 若江真紀

□第1部 「土曜授業」

■職業講話（1年生）



■キャリアチャレンジデイ（2年生）



■卒業生からのメッセージ（3年生）



□第2部 「パネルディスカッション」 14:30~15:30

役割	所属	役職	氏名
登壇者	文部科学省生涯学習政策局社会教育課	地域・学校支推進室長	渡辺 栄二
	高知市教育委員会	教育次長	土居 栄一
	高知市立潮江中学校	学校長	坂本 昌二
コーディネーター	株式会社キャリアリンク	代表取締役	若江 真紀

「地域・社会とつながるキャリア教育～土曜日の教育活動の可能性を探る～」

パネルディスカッションは、学校教員や保護者、企業・団体等、約50名が参加。まずは、「キャリア教育¹⁾」についての意識統一を図るため、コーディネーターからキャリア教育の定義を伝え、パネリストは、国・自治体・学校のそれぞれに視点から「地域や社会と学校がつながることの意義や土曜日の教育活動」について話が展開した。



●なぜ学校が地域・社会とつながるべきなのか

次期学習指導要領のキーポイントである「社会に開かれた教育課程」「社会教育との連携」「カリキュラムマネジメント」について、そのねらいと具体的に教育がどのように変わるのか。

文部科学省渡辺栄二氏より、答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方針について」の説明。特に「学校支援地域本部」から「地域学校協働本部」に代わること、社会とつながる学習としての「土曜日の教育活動」の4つの区分とその定義について説明をいただいた。

高知市では、「地域学校協働本部」を全中学校に一齐設置することになっている。教育次長の土居栄一氏からは、他の地区に先駆けて「地域学校協働本部」を設置するねらいやカリキュラムマネジメントの重要性について説明いただいた。

会場校で高知市立潮江中学校では、学校の変遷を紹介しながら、今の生徒たちに必要な機会として地域とつながることを重視していることを確認できた。子ども達にとって、地域にとって安心・安全な学校を作り、子ども達の生きる力を身につけさせたいと考えており、そのためには様々な大人と関わるのが重要であると考えている。これまでなかなか地域や保護者と連携を意識したことがなかったものの、土曜日や参観日を使うことで、学校への評価も変化しているのではないか。このような取り組みのためには、学校の先生全員で取り組む必要がある。

1) キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のことである（中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日）

●地域・社会とつながることの意義、キャリア教育の教育効果を考える

地域の人と生徒たちが関わることはどのような教育効果があるのか。

高知市では、●●中学校ハローワークなどの形があり、地域へ出て人と会うことや立場の違う人と交流することもキャリア教育の一環であると紹介された。これらは、まったく新たな試みではなく、これまでやってきたことのアップデートである。地域学校協働本部ができることで、地域の人とのネットワークを使うことで、学校単独で描いていた夢のようなことも実現可能となる。そこで、学校が何をしようとしているのか、地域は何ができるのかを確認することが重要である。

潮江中学校でも、子ども達を様々な大人と出会わせたいという思いがあり、そのため今まで教員に求められてこなかったコーディネートという能力を求められるようになる。子ども達が成長する姿を見て、社会とつながる意義を感じてもらい、チャレンジしてほしいと思う。学校と社会がつながることで、生徒たちだけではなく、教員自身も成長することができる。

地方創生と言われている最中、地域の人とつながることは、地域を担う人材を育成することにもつながる。キャリアチャレンジデイのように、地域の大人たちが活躍していることを生徒が知れば、自分たちの地域の中でロールモデルが作られ、郷土愛も築かれる。そこで重要なのは、地域の人とつながるためのテーマ。奈良市では「お団子作り」、岐阜では「商店街の活性化」などがある。

潮江中学校の場合、地域とつながるテーマは、「防災」で既に実績がある。防災をテーマに、小学校へ出前授業や高襟者施設で伝えるなどの活動がある。

●地域・社会とつながる学びのための土曜日の活用についてのそれぞれの見解

潮江中学校では、土曜日の教育活動を2つの側面でもとらえている。一つは保護者からのフィードバックの機会、そして二つ目は保護者のネットワークを把握する機会である。単なる参観日ではなく、授業力向上のための参観日、などのように明確なねらいを設けてきてもらうことが重要。

土曜授業と聞けば、先生が補講する、平日の授業のようなものを想像しがちであるが、比較的協力が得やすい土曜日だからこそ、地域に出て活動しやすい時間である。文部科学省が打ち出している「地域学校協働本部」をすぐに実現はできないが、できることからやっていくこと、地域にまずは一歩踏み出してみるものが何よりも重要である。

ロスライド資料（文部科学省）

<h3>これからの教育課程の理念</h3> <p><社会に関わった教育課程></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会や世界の状況を知り、視野を広げ、よりよい学校生活を通してよりよい社会づくりを目指すよう教育を充実させ、教育課程を充実させること。 ② これからの社会を担っていく子供たちが、社会や世界に好奇心を持って生きていくために必要な資質・能力を身に付け、学校教育において発揮していくこと。 ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、関係者や市民協力を活用した教育の連携を図ったりし、学校教育を学校内外に開き出し、その目指すところを社会と共有し連携しながら実現させること。 	<h3>これからのコミュニティスクールの仕組みの在り方(イメージ)</h3>	<h3>コミュニティスクールの拡大・発展のイメージ</h3>	<h3>地域全体で養育を目指す子供たちの成長を支える仕組み(活動連携図)</h3>																														
<h3>今後の地域における学校の役割(地場学校基本計画)の在り方-イメージ-</h3>	<h3>地場学校協働活動を推進するための体制(イメージ)</h3>	<h3>学校と地域の効果的な連携・協働と推進体制(イメージ)</h3>	<h3>土曜日の教育活動の支援</h3>																														
<h3>文部科学省「土曜学習に関する検討チーム」による調査報告書による検討</h3> <p>調査報告書「土曜学習に関する検討チーム」による調査報告書</p> <p>調査報告書「土曜学習に関する検討チーム」による調査報告書</p>	<h3>土曜日の教育活動の形態</h3> <p>土曜日の教育活動の形態</p> <p>土曜日の教育活動の形態</p>	<h3>全国の土曜日の教育活動の実施状況(平成27年度)</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>土曜授業実施校数</th> <th>土曜授業実施校割合</th> <th>土曜授業実施校数</th> <th>土曜授業実施校割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小・中・高</td> <td>7,291校</td> <td>(27%)</td> <td>2,912校</td> <td>(6%)</td> </tr> <tr> <td>小・中</td> <td>6,502校</td> <td>(27%)</td> <td>2,708校</td> <td>(27%)</td> </tr> <tr> <td>小</td> <td>1,938校</td> <td>(17%)</td> <td>1,477校</td> <td>(17%)</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>4,564校</td> <td>(27%)</td> <td>1,231校</td> <td>(27%)</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>16,139校</td> <td>(48%)</td> <td>33,543校</td> <td>(95%)</td> </tr> </tbody> </table>	学年	土曜授業実施校数	土曜授業実施校割合	土曜授業実施校数	土曜授業実施校割合	小・中・高	7,291校	(27%)	2,912校	(6%)	小・中	6,502校	(27%)	2,708校	(27%)	小	1,938校	(17%)	1,477校	(17%)	中	4,564校	(27%)	1,231校	(27%)	高	16,139校	(48%)	33,543校	(95%)	<h3>平成27年度「土曜日の教育活動」の実施状況(全国)</h3>
学年	土曜授業実施校数	土曜授業実施校割合	土曜授業実施校数	土曜授業実施校割合																													
小・中・高	7,291校	(27%)	2,912校	(6%)																													
小・中	6,502校	(27%)	2,708校	(27%)																													
小	1,938校	(17%)	1,477校	(17%)																													
中	4,564校	(27%)	1,231校	(27%)																													
高	16,139校	(48%)	33,543校	(95%)																													
<h3>土曜日の教育活動推進プラン</h3> <p>土曜日の教育活動推進プラン</p> <p>土曜日の教育活動推進プラン</p>	<h3>地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制構築事業</h3> <p>地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制構築事業</p> <p>地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制構築事業</p>	<h3>土曜学習が関心について</h3> <p>土曜学習が関心について</p> <p>土曜学習が関心について</p>																															

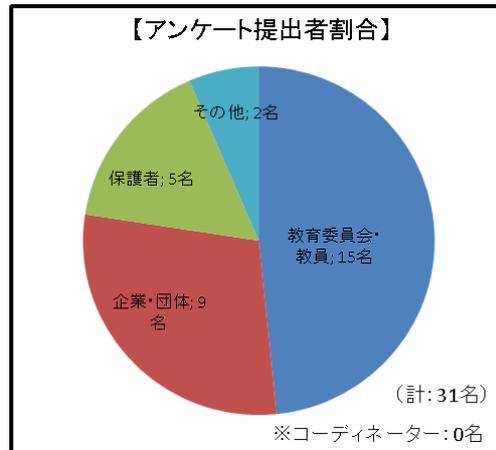
ロスライド資料 (高知市教育委員会)

<h3>土曜学習フェスタ in 高知</h3> <p>土曜学習フェスタ in 高知</p> <p>土曜学習フェスタ in 高知</p>	<h3>H28 高知市学力対策第二ステージ</h3> <p>H28 高知市学力対策第二ステージ</p> <p>H28 高知市学力対策第二ステージ</p>	<h3>H28 高知市学力対策第二ステージ</h3> <p>H28 高知市学力対策第二ステージ</p> <p>H28 高知市学力対策第二ステージ</p>	<h3>H28 高知市学力対策第二ステージ</h3> <p>H28 高知市学力対策第二ステージ</p> <p>H28 高知市学力対策第二ステージ</p>
<h3>キャリア教育の推進</h3> <p>キャリア教育の推進</p> <p>キャリア教育の推進</p>	<h3>高知市地域学校協働本部</h3> <p>高知市地域学校協働本部</p> <p>高知市地域学校協働本部</p>	<h3>種々のあきさの運動の展開</h3> <p>種々のあきさの運動の展開</p> <p>種々のあきさの運動の展開</p>	<h3>校内研修の活性化</h3> <p>校内研修の活性化</p> <p>校内研修の活性化</p>
<h3>基礎・基本の徹底(A問題対応)</h3> <p>基礎・基本の徹底(A問題対応)</p> <p>基礎・基本の徹底(A問題対応)</p>	<h3>土曜学習フェスタ in 高知</h3> <p>土曜学習フェスタ in 高知</p> <p>土曜学習フェスタ in 高知</p>		

□アンケート結果

<参加者分布>

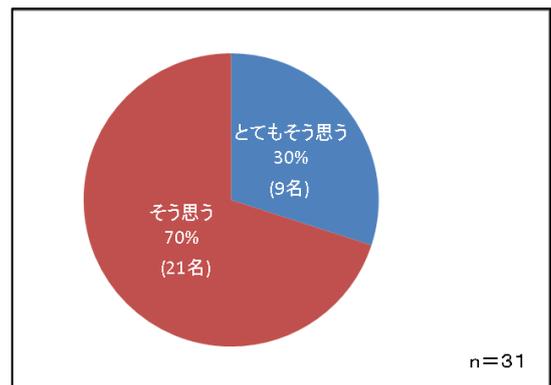
区分	人数
教育委員会・教員	15名
企業・団体	9名
保護者	5名
コーディネーター	0名
その他	2名
合計	31名



●「土曜日の教育活動」の理解について

「土曜日の教育活動」には、①土曜授業②土曜の課外授業③土曜学習（教育委員会の管理下／NPO等民間活動）など、さまざまな形態があることがわかった

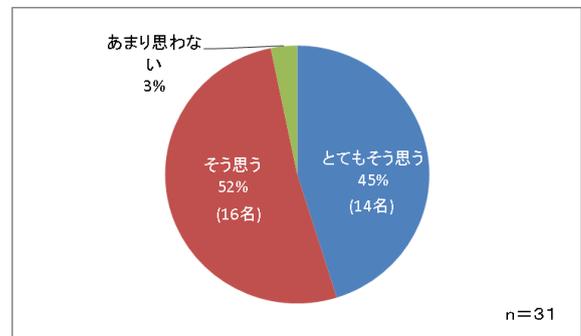
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	9名	2名	3名	3名	0名	1名
そう思う	21名	12名	6名	2名	0名	1名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	30名	12名	9名	5名	0名	2名



●「土曜日の教育活動」の意義について

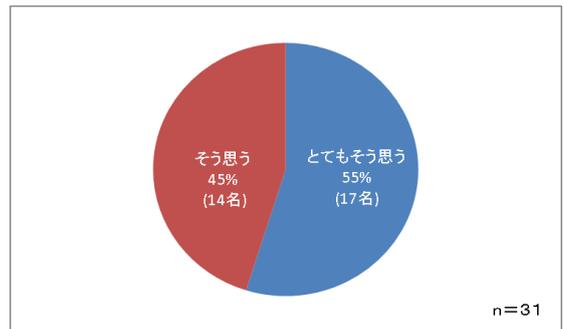
学校、家庭、地域が連携協力することで多様な教育の場が生まれると思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	14名	5名	4名	3名	0名	2名
そう思う	16名	9名	5名	2名	0名	0名
あまり 思わない	1名	1名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	31名	14名	9名	5名	0名	2名



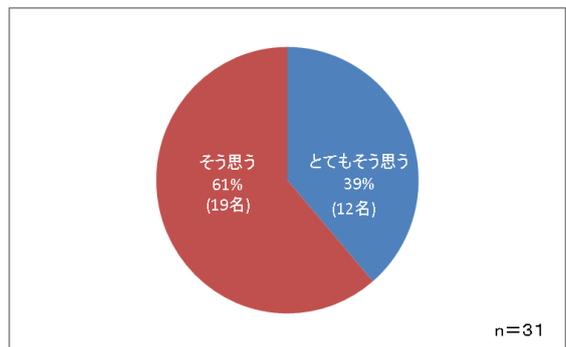
地域や企業が学校で出前授業等を実施することは、子どもたちの学びに有効だと思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	17名	6名	5名	4名	0名	2名
そう思う	14名	9名	4名	1名	0名	0名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	31名	15名	9名	5名	0名	2名



地域全体で子どもたちを育むために、今回のような取組みは今後も必要だと思う。

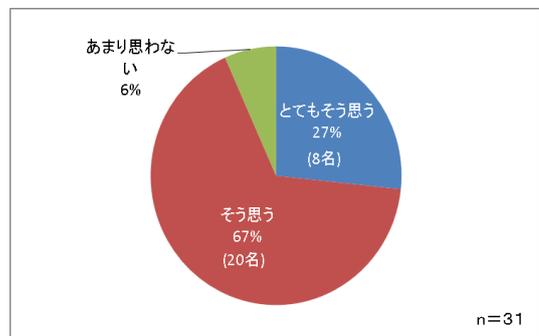
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	12名	2名	4名	4名	0名	2名
そう思う	19名	13名	5名	1名	0名	0名
あまり 思わない	0名	0名	1名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	31名	15名	10名	5名	0名	2名



● 「土曜日の教育活動」への協力について

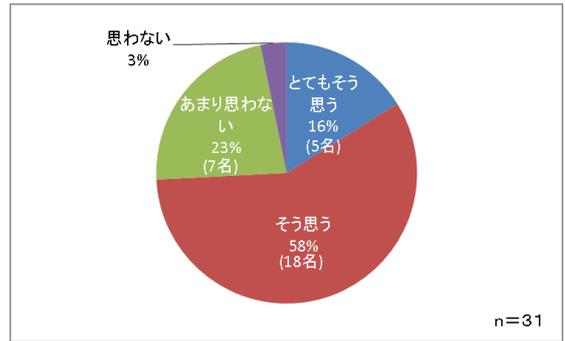
学校から要請があれば、自分もできることから「土曜日の教育活動」に協力したいと思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	8名	1名	2名	3名	0名	2名
そう思う	20名	11名	7名	2名	0名	0名
あまり 思わない	2名	2名	0名	0名	0名	0名
思わない	名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	0名	14名	9名	5名	0名	2名



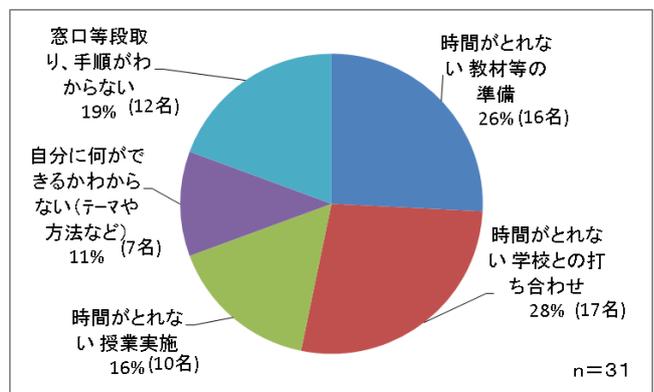
学校から要請があれば、自分も「土曜日の教育活動」の講師ができる分野があるかもしれないと思った（スポーツ、書道、料理など）。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	5名	0名	1名	2名	0名	2名
そう思う	18名	9名	6名	3名	0名	0名
あまり 思わない	7名	6名	1名	0名	0名	0名
思わない	1名	0名	1名	0名	0名	0名
合計	31名	15名	9名	5名	0名	2名



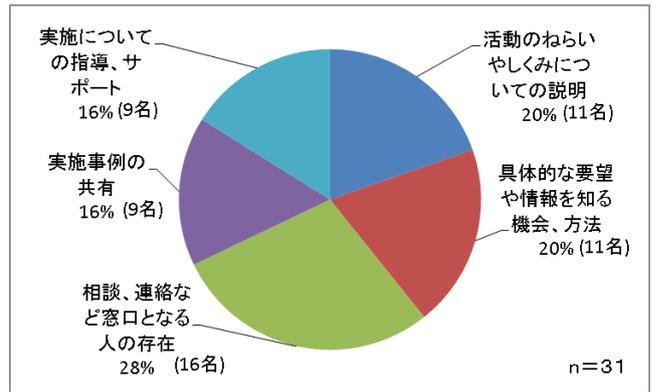
「土曜日の教育活動」への協力について、課題となることは何ですか。（複数回答可）

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
[時間がとれない] 教材等の準備	16	8	3	4	0	1
[時間がとれない] 学校との打ち合わせ	17	9	3	4	0	1
[時間がとれない] 授業実施	10	4	2	4	0	0
自分に何ができるかわからない (テーマや方法など)	7	4	3	0	0	0
窓口等段取り、手順がわからない	13	5	3	3	0	2
その他	5	1	1	2	0	1
合計	68	31	15	17	0	5



「土曜日の教育活動」に協力いただくために、必要な情報やしくみは何ですか。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
活動のねらいやしくみについての説明	11	7	2	1	0	1
具体的な要望や情報を知る機会、方法	11	4	3	2	0	2
相談、連絡など窓口となる人の存在	16	7	4	3	0	2
実施事例の共有	9	4	3	2	0	0
実施についての指導、サポート	9	5	2	1	0	1
その他	0	0	0	0	0	0
合計	56	27	14	9	0	6



●今後、「土曜日の教育活動」に期待することやご意見等をお教えてください。

- ・中学校の行事、地域の行事互いの行事の把握が大切で生徒が実際に参加することが重要。参加しないと地域の方々とのふれあいは生まれません。
- ・子どもたちにとっては、かけがえのない1日を大切に使いたいと思います。
- ・小・中・高と連携し、一貫したキャリア教育のできる日が来る事を楽しみにしています。大学生・留学生や企業との相互利益を教える事で、色々な事に挑戦できると思います。
- ・まずは認知を広げること
- ・いろいろな人たちと生徒（子どもたち）が関わることはとても大事だと思います。いろいろな活動ができるとうよいと思っています。

●その他、本日ご参加されてのご意見、ご感想等、ご自由にご記入ください。

- ・子どもが大人になっていく中で、課題解決力をしっかりつけて欲しいと思いました。
- ・1番前の席で携帯やパソコンをする必要があったのか？話を聞く為に本当に必要だったのか、できれば1番後ろでやってほしい
- ・土曜日を地域としても活性出来る様になればいいと思いました。
- ・どんどん協力したいです！
- ・参観させていただき、学校の様子を見させていただき、とても落ち着いていて、子供たちの様子もすごくよく熱心に授業を受けていました。本当によかったです。ありがとうございました。

■土曜学習フェスタ in 和歌山

<概要>

日時	平成 28 年 2 月 6 日（土） 9:00～13:00	
会場	和歌山市立高松小学校	
対象	第 1 部：小学校 1～6 年生 第 2 部：教員、保護者、各地区子どもセンター運営委員、企業・団体、教育委員会	
目的	～つながる たかまつの人・もの・こと～ 1) 地域の多種多様な人・もの・ことを活用した学習機会を提供し、 児童の知・徳・体の健全な育成を図る 2) 土曜学習フェスタを通して、土曜学習の理解向上・普及啓発を図る	
	時間	内容
第 1 部	9:00～ 10:00	【土曜学習】 講師は「知・徳・体」をテーマにプログラムを実施する。児童は、9 ブースに分かれて、それぞれ講座を体験。 ●知のブース ・おもしろ化学実験「まつじろうの実験ラボ」 ・エアロケットを飛ばそう「たかまつロケット」 ・おもしろものづくり「自動発色ゴマ」 ・まなぼう教室「サイコロゲームで海外のお菓子をうまく買おう！」 ●徳のブース ・食べることは生きること「子どもの手料理」 ・家族で決めよう「家訓づくりプロジェクト」 ●体のブース ・シュートを決めよう！「バスケットボール体験」 ・やっば紀州！「おどろう！よさこい！」 ・手洗いのたいせつさ「手洗い教室～わくわく手洗い～」
	10:10～ 11:10	【もちつき大会】 大人も子どもも、みんな総出で新春祭りだ！地域みんなで一つになって、おもちつき体験。
第 2 部	11:20～ 12:10	【ワークショップ】 「学校を核とした地域の教育力の強化を図る」 地域の方々や保護者・講師・子どもセンター運営委員を中として、それぞれの立場で、学校を核とした地域の教育力について考えていきます。
	12:15～ 12:45	【ふりかえり】 ※関係者のみ実施 企業講師から、本イベントのふりかえりと次年度に向けての検討

□第1部 「土曜学習」

子ども達は、事前に9つのブースの中から1ブース希望を取り、当日参加票を持って参加。

		
<p>和歌山大学システム工学部 和歌山化成品工業協同組合</p>	<p>日本宇宙少年団和歌山分団</p>	<p>地域先達先生：元校長先生</p>

		
<p>野村グループ</p>	<p>J Aわかやま</p>	<p>J C和歌山青年会議所</p>

		
<p>和歌山トライアンズ</p>	<p>よさこい高松連 憂喜世桜</p>	<p>花王株式会社</p>

□第2部 「交流会」もちつき大会

地域の方、保護者、子ども達、教員、第1部企業講師、等によりもちつき大会が開催。



□第2部 「ワークショップ」

役割	所属	役職	氏名
コーディネーター	株式会社キャリアリンク	代表取締役 専務	垣内 亜佐子

学校を核とした地域の教育力の強化を図る

各テーブル5～6名の人数で「子ども達の学びのために、自分たちにできること」について考えるワークショップを行った。

まず、文部科学省からは、土曜学習フェスタの意義、開催校である和歌山市立高松小学校校長・自治会長・PTA 会長より高松小学校の教育についての概観を説明、そして和歌山市教育委員会からは「子どもセンター運営委員制度」について説明してもらい、ワークショップが開始した。

まずは、A3 用紙の事例シートの中から、「気になるテーマややってみたいテーマ」をペアで考え、理由を考えるワークを行った。

出てきたものとしては、以下のものがある。

●オリエンテーリング

これまでは、地域のことをもっと知ろう！として、歴史のコースを回ることを行っており、大人は子ども達の安全見守り隊となっていたが、逆に子ども達が大人の見守り隊となるのはどうか。

●防災について（参加者：子ども発表）

今、和歌山で南海トラフ地震がくるといわれているが、子ども自身は防災対策について考える機会がない。ぜひ土曜日の学習として学びたい。

次に、アクションプランとして、「どうしたら実現できるのか」を考えた。事例シートでは、他の地区での子どもセンター運営委員で行った活動が掲載されており、いずれも実現可能であるという前提から、各人で考えた。

出てきた意見としては、以下のものがある。

●そば打ち体験

料理は子どもや大人も一緒に楽しめる内容であり、ぜひ取り組みたい。クッキーなどは、家でも体験できるのでたとえばそば打ちはどうかと考えた。ただ、そばを教えてくれるマイスターをどうして探すのが課題である。

教育委員会からは、情報提供の重要なポイントは「ネットワークである」ということであると伝えてもらった（その場で、そば打ち体験を行った学校の子どもセンター運営委員がいたため、その経緯を説明してもらえた）。



▼参加者への配布物

参加者は、以下のシートを配布した。

子どもたちの豊かな学びのために！ 自分ができそうなこと、またはやってみたいことを考えてみましょう

やってみたいテーマ・内容

理由(子どもたちのどんな課題解決につながる？)

アクションプラン

いつごろ	どこで	だれと	どんな内容で	どんな手順で

土曜学習in和歌山
「地域の資源」ひと・もの・ことetc..
を活かそう！

料理

フルーツサンド
和菓子
ケーキ
カレー
パフェ
お魚料理
大根もち
七草粥
餅ごぼん
野菜ソムリエ料理教室

見学、体験ツアー

親子フット体験
園遊体験
史跡・文化財見学
自衛隊交番訓練と講義会
さば打ち体験
消防署見学
山登り大会
農業体験

学び

科学実験教室
マジンガン体験教室
言語教室
フラワーアレンジメント
パソコン教室
英会話教室
防災教室
漢字博士検定

工作、ものづくり

クリスマスツリー
風車作り
門松づくり
しめ縄づくり
ビースクワセサリー
七夕飾り
手廻りパペット
パルンアート
万華鏡
切り紙
スライム

季節行事

もちつき
福開き
クリスマス会
七夕祭り
お月見
夏祭り

ダンス、踊り

よさこい踊り
ソーラン教室
日本舞踊
ヨガ
親子ダンス教室
エアロビクス教室

交流

たこやきパーティー
クリスマスパーティー
ハロウィンパーティー
焼きいちパーティー

地域活動

防災・防災教育
交通安全かるた大会
子どもみこし
清掃活動、学校列作戦
花壇づくり
親子奉仕活動
避難訓練

伝統・文化

書道アート
囲碁
茶道
将棋
生け花
英語
絵手紙
水墨画

音楽

音楽会
演劇鑑賞会
DVD鑑賞会
親子で映画を

スポーツ

キンボール
バスケットピンポン
水泳教室
走り方教室
親子ジョギング
合気道体験
なわとび&体操教室
剣道教室
タグラグビー
バドミントン
パレーボール
ボクササイズ
乗馬教室
卓球

その他

絵本読み聞かせ
親子体力測定
おしほいってなあに？

あどび

あどび教室
けん玉教室
かるたとり、百人一首大会
紙飛行機つくってとぼそう
折り紙
竹とんぼ
お手玉

あどび

ダンボール基地づくり
シャボン玉大会

▲ワークシート (A4/各人)

▲事例シート (A3/各グループ)

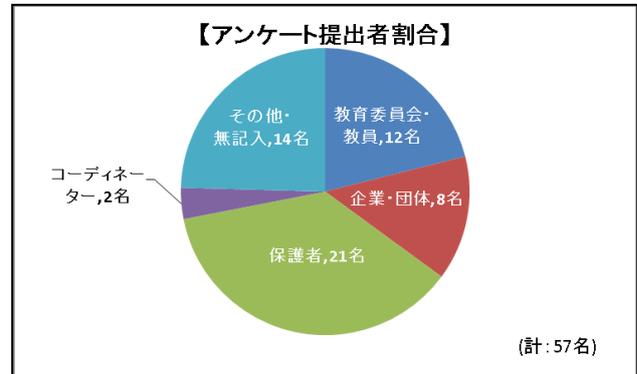
□ふりかえり会

全プログラム終了後、土曜学習フェスタの講座を行った企業・団体に集まってもらい、ふりかえり会を実施した。「1時間しかなく、時間が少なかった」などの意見はあったが、土曜日の教育活動については好意的に受けられており、大規模ではないにせよ、今後は積極的に実施していきたいとのが確認できた。

□アンケート結果

<参加者分布>

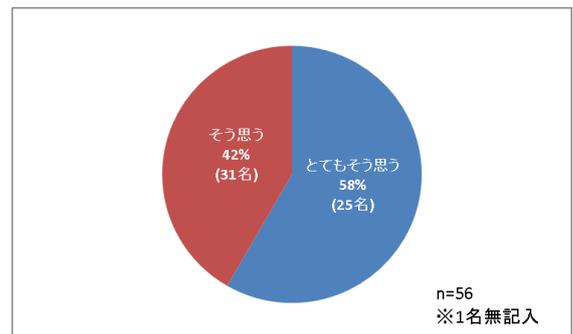
区分	人数
教育委員会・教員	12名
企業・団体	8名
保護者	21名
コーディネーター	2名
その他	14名
合計	57名



●「土曜日の教育活動」の理解について

「土曜日の教育活動」には、①土曜授業②土曜の課外授業③土曜学習（教育委員会の管理下／NPO等民間活動）など、さまざまな形態があることがわかった

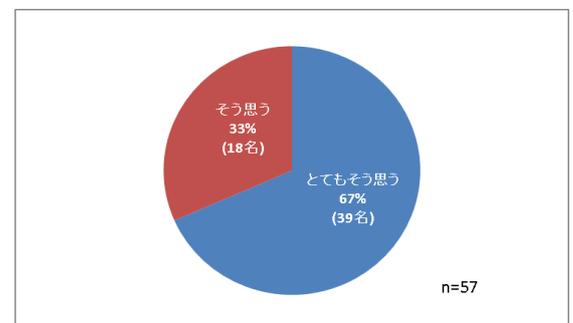
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	25名	7名	4名	7名	0名	7名
そう思う	31名	5名	4名	14名	2名	6名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	56名	12名	8名	21名	2名	13名



●「土曜日の教育活動」の意義について

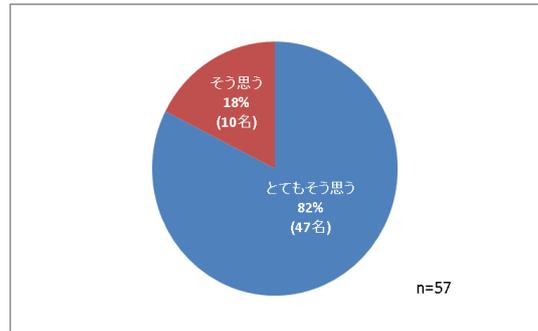
学校、家庭、地域が連携協力することで多様な教育の場が生まれると思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	39名	8名	4名	14名	1名	12名
そう思う	18名	4名	4名	7名	1名	2名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	57名	12名	8名	21名	2名	14名



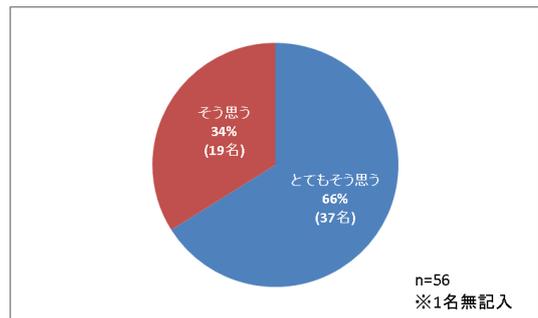
地域や企業が学校で出前授業等を実施することは、子どもたちの学びに有効だと思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	47名	12名	5名	16名	2名	12名
そう思う	10名	0名	3名	5名	0名	2名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	57名	12名	8名	21名	2名	14名



地域全体で子どもたちを育むために、今回のような取組みは今後も必要だと思う。

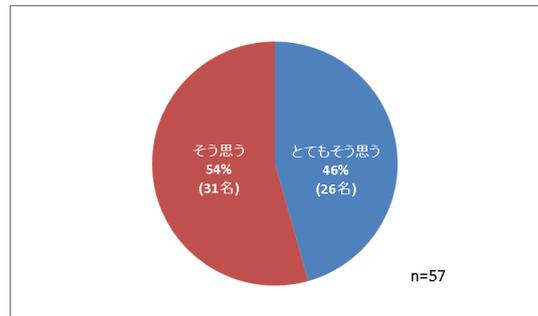
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	37名	9名	5名	11名	2名	10名
そう思う	19名	3名	3名	10名	0名	3名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	56名	12名	8名	21名	2名	13名



● 「土曜日の教育活動」への協力について

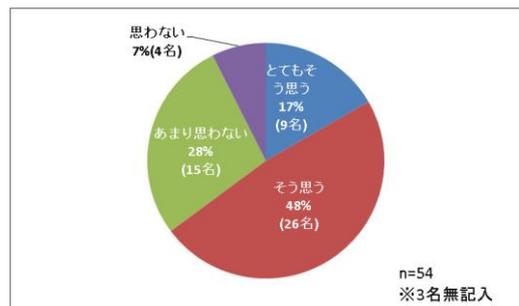
学校から要請があれば、自分もできることから「土曜日の教育活動」に協力したいと思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	26名	7名	2名	11名	0名	6名
そう思う	31名	5名	6名	10名	2名	8名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	57名	12名	8名	21名	2名	14名



学校から要請があれば、自分も「土曜日の教育活動」の講師ができる分野があるかもしれないと思った（スポーツ、書道、料理など）。

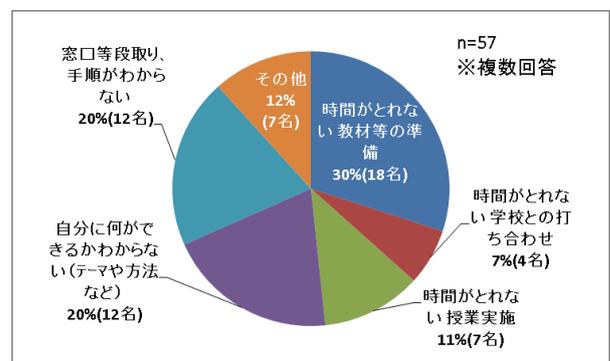
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	9名	1名	2名	3名	0名	3名
そう思う	26名	8名	5名	8名	2名	3名
あまり 思わない	15名	3名	1名	6名	0名	5名
思わない	4名	0名	0名	2名	0名	2名
合計	54名	12名	8名	21名	2名	13名



「土曜日の教育活動」への協力について、課題となることは何ですか。（複数回答可）

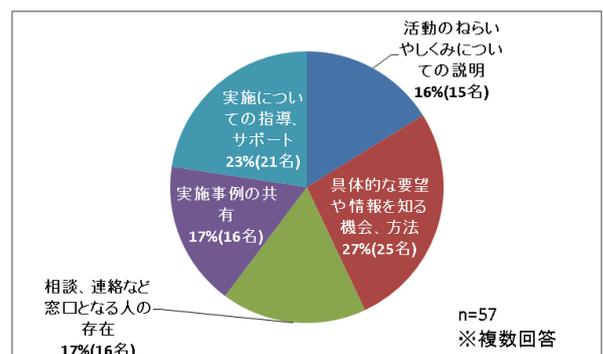
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
[時間がとれない] 教材等の準備	16	8	3	4	0	1
[時間がとれない] 学校との打ち合わせ	17	9	3	4	0	1
[時間がとれない] 授業実施	10	4	2	4	0	0
自分に何ができるかわからない (テーマや方法など)	7	4	3	0	0	0
窓口等段取り、手順がわからない	13	5	3	3	0	2
その他	5	1	1	2	0	1
合計	68	31	15	17	0	5

- ・参加しにくい子どもたちにどう来てもらうか
- ・人手不足
- ・人数(協力してくれる)が少ない
- ・地域と学校との情報共有がもっとあればいいのに
- ・日付の設定



「土曜日の教育活動」に協力いただくために、必要な情報やしくみは何ですか。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
活動のねらいやしくみについての説明	11	7	2	1	0	1
具体的な要望や情報を知る機会、方法	11	4	3	2	0	2
相談、連絡など窓口となる人の存在	16	7	4	3	0	2
実施事例の共有	9	4	3	2	0	0
実施についての指導、サポート	9	5	2	1	0	1
その他	0	0	0	0	0	0
合計	56	27	14	9	0	6



●今後、「土曜日の教育活動」に期待することやご意見等をお教えてください。

- ・本物体験
- ・たくさんの地域でこのような活動がおこなわれることを願います。
- ・親子だけでなく地域との交流
- ・子どもの頭を育ててくれることを期待します！！
- ・地域の子どもの“育ち”のために学校の学びではできない体験やふれあいが生まれる場所であってほしい
- ・有資格者の講演会
- ・学校・地域・各企業が協力しあって開催された事 どうもありがとうございました
- ・子供のいろいろの才能を伸ばすこと。色々な知識を身につけさせることを行ってほしい
- ・ふだんの生活ではありふれることのない体験を子供たちにさせられる企画を提案していきたいです
- ・地域の人のつながり
- ・地域の協力なくては、土曜日の活動は成り立たないのだなとかんじました。多様な体験や地域とのつながりが、保護者にとっても大切なのかなと感じました。
- ・是非、実現したい(昔あそびを)
- ・いろいろな実施例を知ることができてとてもよかったです。予算や人手、準備等クリアできれば高松地区でももっといろいろなことにチャレンジしていきたいと思いました。
- ・地域広報の手段
- ・多くの地域の方と子ども達の交流できること
- ・先生方々だけの場かと思ったので、参加できた事よい場だと思いました。
- ・地域や、伝統を大事にする活動が必要なのでは
- ・大切な活動です

●その他、本日ご参加されてのご意見、ご感想等、ご自由にご記入ください。

- ・家訓作り、とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・楽しい会でした。色々な意見を聞いて今後の土曜日の活動が楽しみになってきました。
- ・子どもを育てるは「学校だけ」「家庭だけ」ではなく、地域・家庭・学校どれも大切であることを今日あらためて感じることができました。
- ・楽しかったの一言だけです！！
- ・引き続き開催して下さい
- ・本日はどうもありがとうございました
- ・色々参考になりました
- ・他の学校の活動の話が聞けてためになりました。もっと色々なことをやってみたいです。
- ・同じグループの教師の方のレベルの低さにうんざりした！
- ・たくさんの企画を見学させていただいてとても勉強になりました
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました
- ・とても参考になりました。来年度は、もっと活動をふやしていきたいと思います。
- ・情報公開をしっかりとして広く知ってもらえるようにしたいと思います。

- ・今日は、参加して良かったです。今まで、和歌山市の自分の住んでいる地区以外の取り組みを聞いたことがなかったの
で、他の地域のお話も聞けて良かったです。
- ・大変勉強になりました。和歌山市内でも地域地域でいろいろ考えられて実行されていることをしりました。ありがとう
ございました！
- ・子供も大喜びでとても良い半日でした。
- ・ネタがマンネリになることが問題であったが、色々なアイデアや取り組み方の違いなどがわかって良かった
- ・ワークショップで様々な意見交換ができ、大変興味深かったです。
- ・地域・保護者・教育関係者、三社これからも連携できる事を願います。
- ・地域の方々の意見を聞く機会になり、良かったです。
- ・学校・保護者・地域住民、皆それぞれの立場で子ども達を育てていく思いや方法を少しでも共に語れる場が作れたこと
は有意義でした。今後も継続して行って下さい。
- ・子供の意見、ステキでした。
- ・他のブースに参加したい子もあったと思うので、小出しに実施する形でもよい。
- ・とても素敵な会でした。
- ・大変よかった

■土曜学習フェスタ in 豊橋

<概要>

日時	平成 28 年 2 月 1 2 日 (土) 9:30~12:45	
会場	豊橋市大清水まなび交流館 (ミナクル)	
対象	第 1 部 : 小学校 1~6 年生、中学校 1 年生 豊橋市立植田小学校、大崎小学校、大清水小学校、野依小学校、南稜中学校 第 2 部 : 教員、保護者、地域教育ボランティア、企業・団体、教育委員会	
目的	1) 土曜日の教育活動の実施による児童・生徒への多様な学習機会を提供する 2) パネルディスカッションを通して、土曜学習の理解向上・普及啓発を図る	
	時間	内容
第 1 部	【第 1 回】 9:30~ 10:15	【土曜講座】 ・お花を飾ろう! ・「とよはし百菜鍋と焼きおにぎり」作って食べまい!! ・社会の役に立つモノづくりの現場 ・手洗い講座
	【第 2 回】 10:30~ 11:15	・のんほい牛乳のヒミツ ・キミもアーティスト ・トヨッキーのキャッチフレーズをつくろう! ・おもちゃ de オリンピック
第 2 部	11:45~ 12:45	【パネルディスカッション】 「地域の子どもは地域で育てる~豊橋市のこれからの教育について~」 <登壇者> ・豊橋市教育委員会教育長 加藤 正俊氏 ・豊橋市立植田小学校 校長 福井朋子氏 ・武蔵精密工業株式会社 総務課長 伊藤広貴氏 ・地域教育ボランティアコーディネーター 兵藤 善晴氏 <コーディネーター> ・株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 真紀
	13:00~ 14:30	【ふりかえり会】 ※関係者のみ参加 イベントの学校関係者や教育委員会、運営スタッフにて振り返り実施

□第1部 「土曜講座（体験型講座）」

子ども達は、事前に9つのブースの中から1ブース希望を取り、当日参加票を持って参加。

		
<p>【お花を飾ろう！】 イノチオホールディングス 株式会社</p>	<p>【『とよはし百菜鍋と焼きおにぎり』 作って食べまい！！】 JA豊橋</p>	<p>【社会の役に立つ モノづくりの現場】 武蔵精密工業株式会社</p>
		
<p>【手洗い講座】 花王株式会社</p>	<p>【のんほい牛乳のヒミツ】 中央製乳株式会社</p>	<p>【キミもアーティスト】 愛知大学・大学生</p>
		
<p>【トヨッキーの キャッチフレーズをつくろう！】 愛知大学・大学生</p>	<p>【おもちゃdeオリンピック】 地域教育ボランティア</p>	

□第2部 「パネルディスカッション」 14:30~15:30

役割	所属	役職	氏名
登壇者	豊橋市教育委員会	教育長	加藤 正俊
	豊橋市立植田小学校	校長	福井 朋子
	武蔵精密工業株式会社	総務課長	伊藤 広貴
	地域教育ボランティア	コーディネーター	兵藤 善晴
コーディネーター	株式会社キャリアリンク	代表取締役	若江 眞紀

テーマ：「地域の子どもは地域で育てる～豊橋市のこれからの教育について～」

パネルディスカッションでは、約100名が来場し、盛況となった。コーディネーター：若江より、午前中に行った土曜学習フェスタの内容が確認され、なぜ「土曜日の教育活動」が必要なのか、をテーマに議論が行われた。

●地域・社会とつながることの意義、教育効果を考える

地域とつながる学びを行うことでの子ども達の変化について福井校長から「4年生の児童」報告がされた。4年生の児童は、学習活動の中で、防災をテーマに地域の人と連携を行ってきた。その中で、自分たちで地域の人を抱える課題を発見し、解決策を考え、表現するという活動を行い、新聞記事にも取り上げられたとのこと。地域と関わることで、主体的に学習に取り組み、教科の発展となった事例を発表していただいた。



地域と子ども達がつながることでの周りの変化について、兵藤氏や伊藤氏から、変化について発表された。子ども達と関わることは、自分たちにとっても勉強になる。子ども達の「もっと知りたい」という思いに応えるために、わかりやすく話す訓練などをしておくことで、普段業務にも生かされ、社員研修としても活用できるかもしれないとの提案がされた。地域教育ボランティアの兵藤氏からは、どの地域であっても、昔の遊びやお米作り体験等を教えることができる人材がいるということが確認された。

豊橋市では、各小学校区に「地域教育ボランティア」というボランティア制度を設けている。全国的にも珍しい取り組みを行う背景には、「子どもの貧困」があることが、加藤教育長から説明があった。今は体験をお金で買う時代となっていることから、子ども達の間にも体験量の格差が生じている。しかし、豊橋市には、各地区に生涯学習施設（市民館等）がそろっていることから歴史的にも社会教育が進んでいる場所であると思われる。そのような土壌の中で、学習機会や体験を増やしてほしい。また、学校を取り巻く環境も変化している。学校の中だけで完結していた学びであったものが、学校の外での学びも重要となっている。地域には素晴らしい人材＝キーパーソンが多数存在する。そのキーパーソンの中に学校教員も参加して、地域で子どもを育てるといふ風土をつくりたい。

●地域・社会とつながる学びのための土曜日の活用についてそれぞれの見解

植田小学校では、地域とつながる上で、「教科や授業と関連している」ことが重要であると考えている。最先端技術がこの豊橋で使われていること、今の教科の学習と社会とどのようにつながっているのかが理解できると、子ども達の学習意欲は各段に上昇すると報告がされた。しかし、平日の時間ではなかなか「本物」を見たり、触れる体験をとる時間が取れず、先生の「こんな体験をさせてあげたい」という思いは、土曜日の時間を使って実施しているケースが多い。

このように、学校のニーズに沿って土曜日の教育活動を行うことが重要であると、兵藤氏も説明。コーディネーターがやりたいからするのではなく、きちんと学校のニーズを把握し、そのニーズを満たす



人材を見つけ、学校と調整するのが、コーディネーターの仕事であり、学校の応援団として子ども達を育てていきたいと、コーディネーターの役割や学校について理解することの重要性を訴えた。

しかし、加藤教育長からは、地域教育ボランティア制度は、学校の協力者としての役割だけではないと話された。重要なのは、学校の子供達は、「私達の地域の子供たちである」という意識を持つことである。私達の地域の子供達だからこそ、「こんな体験をさせてあげたい」「こんな

経験を積んでほしい」と学校と話し合うこと、学校と地域がお互いに子ども達のことを考えることで、子ども達にとっては、世代を超えた地域でのコミュニケーションが生まれ、現代版の「昭和の原風景」が作れるのではないかと将来ビジョンも示された。

最後に、それぞれ一言ずつメッセージをいただいた。土曜日の教育活動は、子ども達が本物に触れる、体験する機会となり、非常に重要な時間であると思う。なにより、子ども達だけではなく自分たち大人にとってもワクワクする時間であり、これからも続けていきたい、と宣言された。

□ふりかえり会

ふりかえり会では、土曜学習フェスタのふりかえりや今後の大清水まなび交流館（ミナクル）での活動についての課題等を話し合った。

講師の中には、「普段、子ども達と触れ合う機会がなく、どんな話をすればよいのかわからなかった。学校の先生と協力しながら、進めていく方がよいと思った」「小学校の時期は、様々な体験をして感受性を育てる時期だと思う。今後も要望があれば、土曜日の教育活動を続けていきたい」などのご意見を頂いた。

《参加者》

	所属	役職	氏名
1	文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域・学校支援推進室	室長補佐	下田力氏
2	文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域・学校支援推進室 地域学習活動	企画係	鶴澤淳氏

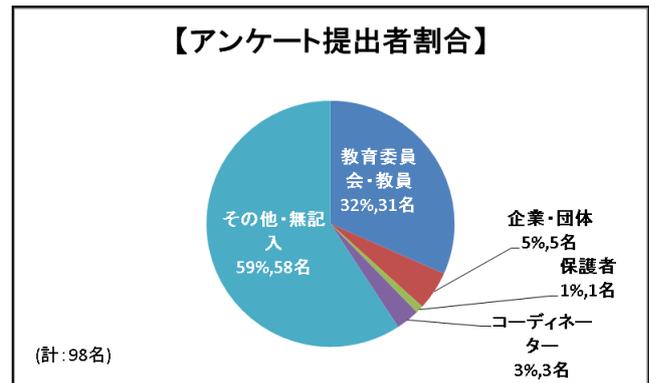
3	地域教育ボランティア コーディネーター		兵藤善晴氏
4	武蔵精密工業株式会社	総務課長	伊藤広貴氏
5	豊橋市立植田小学校	校長	福井朋子氏
6	豊橋市立植田小学校	教諭	山本氏
7	地域教育ボランティア		市川和生氏
8	地域教育ボランティア		原田綾子氏
9	地域教育ボランティア		金子千栄子氏
10	JA 豊橋		河合孝弘氏
11	JA 豊橋		木田きよゑ氏
12	イノチオホールディングス株式会社		長谷川紀子氏
13	中央製乳株式会社		奥村容正氏
14	中央製乳株式会社		田中氏
15	花王株式会社 豊橋工場		大野昌之氏
16	花王株式会社 豊橋工場		鈴木光次氏
17	豊橋市立大清水小学校	学校長	後藤公英氏
18	豊橋市立大崎小学校	学校長	兼子知子氏
19	豊橋市立野依小学校	学校長	戸田守彦氏
20	豊橋市南稜中学校	学校長	小出志郎氏
21	愛知県教育委員会生涯学習課		山本氏
22	豊橋市大清水まなび交流館	館長	鷺坂浩孝
23	豊橋市教育委員会 生涯学習課	課長	森田教義氏
24	豊橋市教育委員会 生涯学習課		中村武史氏
25	豊橋市教育委員会 生涯学習課		星力氏
26	豊橋市教育委員会 生涯学習課		伊藤氏
27	豊橋市教育委員会 生涯学習課		大羽雅之氏
28	豊橋市教育委員会 生涯学習課		伊藤理氏
29	豊橋市教育委員会 生涯学習課		塩野氏

30	豊橋市教育委員会 生涯学習課		西尾氏
31	株式会社キャリアリンク	代表取締役	若江 真紀
32	株式会社キャリアリンク		垣内 亜佐子

□アンケート結果

<参加者分布>

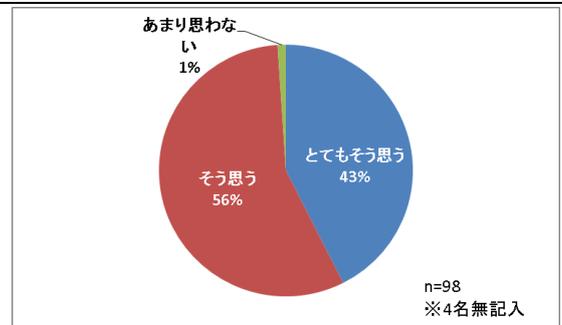
区分	人数
教育委員会・教員	31名
企業・団体	5名
保護者	1名
コーディネーター	3名
その他	58名
合計	98名



●「土曜日の教育活動」の理解について

「土曜日の教育活動」には、①土曜授業②土曜の課外授業③土曜学習（教育委員会の管理下／NPO等民間活動）など、さまざまな形態があることがわかった

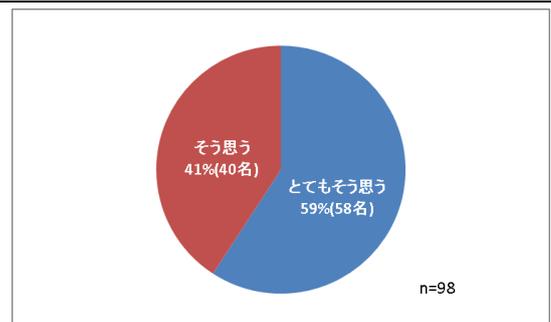
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	25名	7名	4名	7名	0名	7名
そう思う	31名	5名	4名	14名	2名	6名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	56名	12名	8名	21名	2名	13名



●「土曜日の教育活動」の意義について

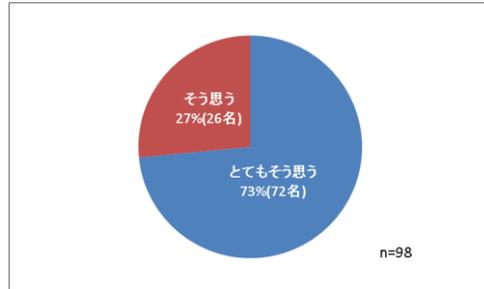
学校、家庭、地域が連携協力することで多様な教育の場が生まれると思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	25名	7名	4名	7名	0名	7名
そう思う	31名	5名	4名	14名	2名	6名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	56名	12名	8名	21名	2名	13名



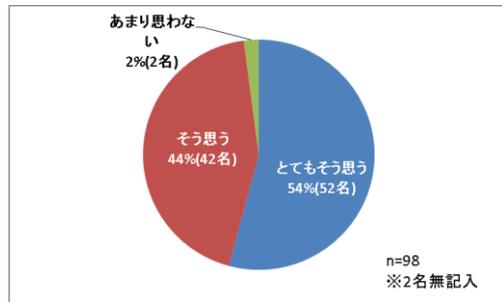
地域や企業が学校で出前授業等を実施することは、子どもたちの学びに有効だと思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	25名	7名	4名	7名	0名	7名
そう思う	31名	5名	4名	14名	2名	6名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	56名	12名	8名	21名	2名	13名



地域全体で子どもたちを育むために、今回のような取組みは今後も必要だと思う。

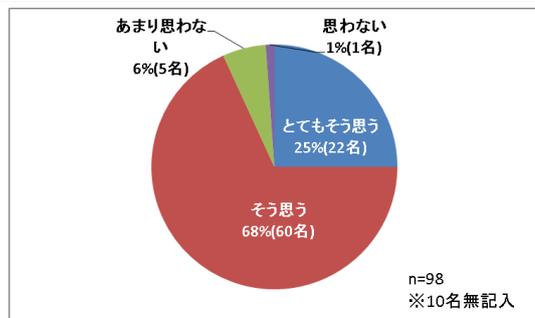
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	25名	7名	4名	7名	0名	7名
そう思う	31名	5名	4名	14名	2名	6名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	56名	12名	8名	21名	2名	13名



● 「土曜日の教育活動」への協力について

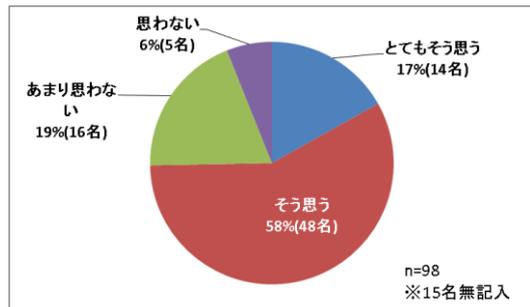
学校から要請があれば、自分もできることから「土曜日の教育活動」に協力したいと思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	25名	7名	4名	7名	0名	7名
そう思う	31名	5名	4名	14名	2名	6名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	56名	12名	8名	21名	2名	13名



学校から要請があれば、自分も「土曜日の教育活動」の講師ができる分野があるかもしれないと思った（スポーツ、書道、料理など）。

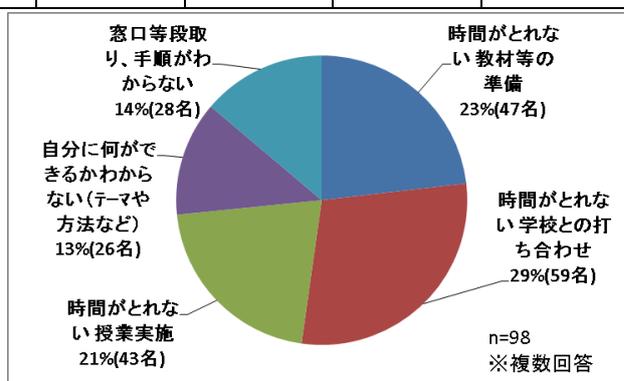
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても そう思う	25名	7名	4名	7名	0名	7名
そう思う	31名	5名	4名	14名	2名	6名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	56名	12名	8名	21名	2名	13名



「土曜日の教育活動」への協力について、課題となることは何ですか。（複数回答可）

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
[時間がとれない] 教材等の準備	18	4	4	9	0	1
[時間がとれない] 学校との打ち合わせ	4	0	1	1	1	1
[時間がとれない] 授業実施	7	2	2	1	0	2
自分に何ができるかわからない (テーマや方法など)	12	3	0	4	0	5
窓口等段取り、手順がわからない	12	7	3	3	0	0
その他	7	0	6	6	0	1
合計	60	16	9	24	1	10

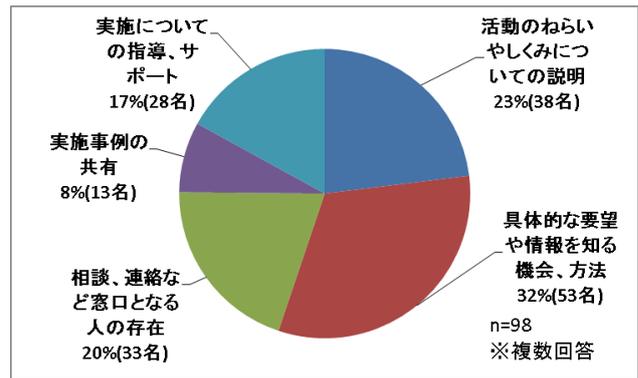
- ・親の送迎等支援が必要
- ・個人的には特に支障となることはない
- ・変わる人たちの目的意識の共有
- ・補修や遅進児への対策を小学校と連携すること
- ・講師・スタッフの情報共有
- ・学校側(先生方)のフォロー



「土曜日の教育活動」に協力いただくために、必要な情報やしくみは何ですか。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
活動のねらいやしくみについての説明	15	2	2	4	2	5
具体的な要望や情報を知る機会、方法	25	4	4	11	1	5
相談、連絡など窓口となる人の存在	16	2	3	9	0	2
実施事例の共有	16	4	2	9	0	1
実施についての指導、サポート	21	7	2	10	0	2
その他	0	0	0	0	0	0
合計	93	19	13	43	3	15

- ・人材の確保+参加する児童のニーズに沿った内容の調査など
- ・そんなに構えずに参加・協力していいのだよ。という意識をもっていただくこと



●今後、「土曜日の教育活動」に期待することやご意見等をお教えてください。

- ・地域の人と子どものかかわり。
- ・地域教育は必要だと思いますが学校をベースにすることはパワーバランスが学校に片よってしまう恐れがあると思う。コーディネーターは学校でなく行政が良いと思う。
- ・子どもたちが目を輝かせて活動できる内容を提供してほしい。
- ・ミナクルを使っていつも何か講座が開設されており、興味をもった子どもが自由に参加できるようなシステムができるといいかな。自由参加ができる講座があるといいと思いました。
- ・人と人との心のふれ合いが大切だと思いました。
- ・教員の中で“あくまでボランティア”としてコーディネーター的にお手伝いすることへの認識の差はどうしても出ると思うのだが、その辺りの理解を求めるとは難しいと感じます。
- ・参観・見学させていただいて、子どもたちの表情が明るかったことが印象的でした。今後も参加者を増やすには保護者へのアピール・必要性の理解などさらに啓発がいると思います。教育関係者と家庭の温度差をうめていくことが課題だと感じています。
- ・継続するための工夫、取り組みが大事だと思います。今後もサポートをお願いしたい。
- ・多くの企業の参加。豊富な講座。
- ・市民館だけでなく、学校という施設も利用できるようになることを望みます。
- ・今回は参加費無料の点での盛り上がりもあったと感じた。今後のかかる費用(経費)の問題をどうするかが気になります。
- ・窓口となる人の存在(コーディネーター)が一番。学校が教育目標、計画に沿った率直な申し出(依頼)をすること。できるところから全校でやっていく。
- ・市民館を土曜を含め日曜日にも子どもが“行きたい!”と思う企画を早急に企画したい。Cブロックの「七つ星」は先鞭。
- ・人間性豊かな子どもを育てるものであってほしい。(ただ楽しかったにおわらないように)
- ・次世代教育は大事な事と思っています。又、この様な活動を定期的に活動の場を設けていただければと思う!!
- ・学びたい県の回数増加。
- ・大切な事はよくわかります。参加者の確保をどう継続していくか。
- ・教育活動の内容と参加対象者の範囲。希望者のみ?
- ・教育の格差の視点は参考になった→体験の格差をうんでいることに着目⇒(本物実物、実体験)。地域のいきいき講座は、これからどうしていこうかな。
- ・豊かな学びができる活動をこれからも用意して頂けるようお願いいたします。

-
- ・専門的な知識をもつ企業の方に講座をもって頂くことは、キャリア教育の面からも非常に大きな効果があるように感じました。
 - ・参加する児童を多くし、体験的機会をふやしたい。
 - ・学校生活だけでは体験できないような活動を、子どもたちがとても楽しんで参加していて、今後もっと、今回のような機会が増えていけばいいなと思いました。
 - ・もう少し都心部で開催していったらどうか。
 - ・自分の地元では無かった学習形態だが、帰っていく児童の様子を見ると非常に有意義な学習であったと思うので、日本全国に広がっていくと思う。
 - ・今回のような活動が豊橋だけでなく愛知県、全国に広がること。
 - ・子供達も地域の事をより多く知る必要がある。子供も家から出掛ける事に楽しみをもつようになるといい。昔は町内に色々な工場作業場があったので自然に知識を得た。地域活動に魅力をもつように。その代理に今日の様な講座が必要かも。
 - ・いろいろな活動ができると思うが、予算が必要な場面ではどう補助していくのか？
 - ・人を集めてセッティングされた講座をこなすだけでは限界がある。適切な環境を与え、子どもたちからの自主的な活動意欲・発想などが育つような活動が望ましい。
 - ・広がりのあるシステムの構築ができるよう期待しています。
 - ・企業や農協なども協力してくれてありがたい。
 - ・「土曜日の教育活動」が当たり前になってほしい。子どもだけでなく実施する人間にも学べる場になってほしい。
 - ・地域の学校として学校・地域が同じレベルで取り組むこと。
 - ・特にありません。
 - ・学校開放は良い。教育活動に直結するものがあるとよい。市民館でできるものをひんぱんに。
 - ・地元企業をうまく動かす仕組みやアイデアが必要だと感じました。
 - ・やる気のある人がスムーズに活動できる流れを情報発信しているといいと思います。
 - ・体験活動と学習活動を効果的に実施できるとよい。
 - ・地域とのかかわりがこれからさらに密接なものになる。
 - ・今後も子どもたちの学ぶ体験ができる場が多く必要になると思うので、継続して欲しいと思いました。
 - ・やはり、子どもたちも「知らない先生」や「知らない人」(大学生など)に話しかけられるよりも「知っている先生」に話しかけられる方が安心するだろうし、何よりも安心して学ぶことができると感じました。私たち大学生が話しかけてもなかなか「あいさつ」や返事、反応ができない子もいらっしまったが「知っている先生」が話しかけたら笑顔で「できたよ！」と返事していました。子どもたちも「知らない人」や「社会のいろいろな人」と関わるのはとてもよいことですが、やはり、「知っている先生」や「おうちの人」などがいっしょに参加することで、よりよい学びになるのではないのでしょうか。(というより、講師やボランティアの負担を減らす必要がある。まだ講師等の負担が大きすぎる感じを受けました。)
 - ・新しいこと、新しい出会いを子どもたちに提供するのとてもすばらしいと思うが、それをするためのファシリテーターが必要だと感じた。
 - ・教育委員会や学校が主体となって、「土曜の教育活動」を推進しているのは学校教員の負担が大きく、本来の学校教育活動に支障をきたす心配がある。地域が体制づくりをして進めていくべきである。
 - ・子どもたちが達成感を得ることができるものを用意して欲しい。

-
- ・はじめは強制でなく、ゆっくり浸透させていくべきだと思う。
 - ・今後の継続的な取り組みに期待しています
 - ・小学校ばかりでなく、もっと幼少期からの社会教育の開始できるようにすべき。もっと情報(興味を持たせるよう提供の仕方を工夫)を提供すべき。
 - ・土曜日を使って地域の子どもたちを育てることは今の大きな課題だと思う。一方で地域住民や保護者に温度差があるものも事実。推進するうえで無理があってはならない(無責任であってはならないと強く感じる)
 - ・週5日制になり、土曜日の過ごし方が多様化し、習い事やスポーツチームの活動が固定化している家庭や子ども達の扱いはどうなるのか? 全員参加では無理だと思うが、自由参加になるといつも決まった子どもしか参加しないという現象もおこるのでは?
 - ・土曜日と限らず、いろいろな職業の人を招いて話を聞かせてもらいたい。

●その他、本日ご参加されてのご意見、ご感想等、ご自由にご記入ください。

- ・継続と他への広がり
- ・今日、子どもが粗暴なことをしていたとき地域の人は声をかけず、市の方が声をかけてもきかず、教員の言うことはきいた。だれとの関わりも大切にできる教育力が必要。
- ・地域グルミの教育システムの意義を共有するのにとっても良い機会でした。もっと多くの方に聞いていただきたい。
- ・教育長の経済力に左右されない学びのチャンスを作るという言葉に感動しました。
- ・細かなところまで気配りがされていて、とても充実した会になっていたと思う。
- ・子どもたちは、楽しくいきいきと活動していました。学校ではできない体験や一歩踏み込んだ体験をしていて良いなと思いました。
- ・子どもは体験は必要です。安全面を抑えつつ、どんどん増やしてほしい。
- ・学校の教員(管理職)は転勤があり、短所でもあるが、いつか長所に転ずることを願う。
- ・地元の小中学校に登録されているコーディネーターの名簿がほしい。今後コーディネーターの発展を旺盛したい。自治会への協力要請も大切。
- ・子供が予想以上に意欲的であった。
- ・企業の学習プログラムが感心させられた→情報の共有。
- ・パネルディスカッションへの参加によって、どんな考えや思いをもってこのイベントが用意されたかを理解できて良かった。子供たちが良い体験の機会を得られて良かったです。子供のためになる活動をボランティアとしてかって頂きありがとうございます。
- ・植田の桜プロジェクトの様に子どもの主体的な動きを導き出す校区の人々との関わりを作り出す活動に対するご努力に敬意を表します。土曜学習フェスタのチラシの中の「第1回目」「第2回目」の表紙は改めてほしいです。(1回目 or 第1回)
- ・このような場で講師という貴重な体験をさせていただきまして、本当にありがとうございました。子どもたちが生き生きとしていて、とても素敵な活動でした。もしまた機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたいです。
- ・本当にありがとうございました。
- ・多くの子供たちとふれ合い、多くの笑顔を見ることができ、力を分けてもらうことができました。地域と教育との交流は必ずどちらにとってもプラスになることだと思いました。

-
- ・様々な体験をしている子ども達の様子を見て、より今回のようなフェスタが続いてほしいと思った。
 - ・とても参考になりました。
 - ・先生も同年に数日はボランティアで活動してもらっては。加藤教育長のお話良かった。これからのめざすものよくわかりました。
 - ・土曜日に出たくても送り迎えしてくれる大人がなくて出れない子供がいるのでは？とちょっと心配しました。
 - ・子どもたちのいきいきとして表情が印象的でした。
 - ・保護者の方も含め挨拶の返答が少なかったように思った。こういったことも扱っていいと思う。学校では時間の都合上扱えないことを学べる場になってほしい。
 - ・今回が打ち上げ花火にならないことを望む。
 - ・とてもよかったです。ありがとうございました。
 - ・運営スタッフの方がよく打ち合わせをされていてとても楽しんでいたと思います。
 - ・現状を知ることができてよかった。
 - ・子どもたちの笑顔が増えるのでとても良い活動であると思う。ただ、準備がしっかりできていないと難しい。
 - ・これから教育に関わっていくにあたって自分の考えの幅を広げるいい機会になった。
 - ・子どもの貴重な体験になるのだと実感しました。アクティブラーニングとしては地域との連携した取り組みは素晴らしいものだった。
 - ・子ども達が授業がよく分からない、集中できないなどの時に講師は一般の方なので(教育のプロとは限らないため)先生方のフォローがないととても厳しい。
 - ・一日のイベントとしては良かったと感じた。子ども達はとても楽しそうに活動していた。若手のスタッフも貴重な経験になったと思う。ただ、関わる人たちの多さには驚いた。長続きする取り組みとはならないと残念ながら強く感じた。
 - ・時間にあまり余裕がないと感じた。
 - ・土曜日の活動に対する子どもたちの障害保険の問題など、実施に際しては表面から見えない様々な課題はあると思う。それらの対応についても触れてもらえるとよかった。

■土曜学習フェスタ in 横浜

<概要>

日時	平成 28 年 3 月 1 2 日 (土) 9:30~16:30	
会場	横浜市立南高等学校附属中学校	
対象	第 1 部: 中学校 1~3 年生 第 2 部: 教員、保護者、企業・団体、教育委員会	
目的	1) 土曜授業での発表を通じて、1 年間の総合的な学習の時間のふりかえりとする 2) 教育フォーラムを通して、土曜日の教育活動の理解向上・普及啓発を図る	
	時間	内容
第 1 部	9:30~ 11:30	【土曜授業】 ①総合的な学習の時間の集大成としての研究発表 (2・3 年生) ・各教室にて、3 年生が 2 年生に向けて発表。 ②ポスターセッション ・1 年生
	*** 12:15~ 13:15	【懇談会】 ●事例発表者や有識者が土曜日の教育活動について懇談会
第 2 部	14:00~ 15:00	【事例発表】 ●特色ある土曜日の教育活動を行っている団体より事例発表 ・横浜市立南高等学校附属中学校 ・NPO 法人 ALARE ・ミサワホーム株式会社 ・株式会社富士通コンピュータテクノロジーズ
	15:00~ 16:30	【教育フォーラム】 ●概要 「地域に開かれた学校のために」 ～学校教育・社会教育におけるカリキュラムマネジメントの重要性～ ■登壇者 ・伯井 美徳 氏 (文部科学省 大臣官房審議官 初等中等教育局・高大接続担当) ・高橋 正尚 氏 (横浜市立南高等学校附属中学校 学校長) ■内容 ① 変わる日本の教育～「真の学ぶ力」を育成するための 一体的な教育改革について (伯井 美徳氏) ② 横浜市高等学校附属中学校の事例より カリキュラムマネジメントの重要性について (高橋 正尚氏) ■コーディネーター ・株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江真紀

□第1部 「土曜授業」 9:30~11:30

1時間目から4時間目までは、横浜市立南高等学校附属中学校で行われている「総合的な学習の時間（EGG）」の土曜授業。中学校1年生は、1年間の学習のまとめをポスターにまとめ、主に保護者に対して発表。中学校2・3年生は、3年生の「卒業論文」の内容を、中学校2年生に対して発表。発表では、これまでの学習の内容や気づきが盛り込まれており、異年齢に対して発表することで、系統立てた総合的な学習の時間の成果がうかがえた。



□懇談会 12:00~13:15

昼食後、懇親会では「土曜日の教育活動」について、事例発表者や有識者、文部科学省職員、土曜学習フェスタ事務局と話し合った。「」など、今後の「土曜日の教育活動」を推進するためのご意見を頂いた。

《参加者》

	役割	所属	役職	氏名
1	事例発表	横浜市立南高等学校附属中学校	校長	高橋 正尚
2		横浜市立南高等学校附属中学校	副校長	清田 英美
3		NPO 法人 ALARE	代表	渡部 雄大
4		NPO 法人 ALARE		大崎 豪史
5		ミサワホーム株式会社 法人営業部法人推進課 技術部南極プロジェクト	参事	手塚 啓

6		株式会社富士通コンピュータテクノロジーズ 人材開発室	室員	江口 かおる
7	審査委員	奈良市教育委員会事務局 教育政策課	課長補佐	小林 正典
8		NPO 法人まちとみらい	代表	竹原 和泉
9	主催者	文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域・学校支援推進室	室長	渡辺栄 二
10		文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域・学校支援推進室	室長補佐	下 田 力
11		文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域・学校支援推進室地域学習活動	企画係	鶴澤 淳
12		文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域・学校支援推進室地域学習活動	企画係	三上茉莉
13		文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域・学校支援推進室地域学習活動	企画係	錦織慎司
14	事務局	株式会社キャリアリンク	代表取締役	若江 眞紀
15		株式会社キャリアリンク		垣内 亜佐子

□第2部 土曜日の教育活動 事例発表

《発表者》

	所属	役職	氏名
1	横浜市立南高等学校附属中学校	副校長	清田 英美
2	NPO 法人 ALARE	代表	渡部 雄大
3	ミサワホーム株式会社 法人営業部法人推進課 技術部南極プロジェクト	参事	手塚 啓
4	株式会社富士通コンピュータテクノロジーズ 人材開発室	室員	江口 かおる

まず、事務局：垣内より、土曜日の教育活動の分類の説明を行い、それぞれの分類から事例を発表してもらうことを説明。その後、各団体代表者から、10分間でそれぞれの取り組みについて発表。

《事例発表者スライド》

●横浜市立南高等学校附属中学校

<p>土曜授業を活用した 総合的な学習の時間 EGG</p> <p>平成28年3月12日 横浜市立南高等学校附属中学校</p>	<p>南高校附属中とは</p> <p>平成24年4月 開校</p> <p>*併設型中高一貫教育校 中学校 1学年4クラス 高等学校 1学年5クラス</p> <p>*横浜市立南高等学校 昭和29年設立 現在の高1は附属中 1期生 (南高校 62期生)</p>	<p>建学の精神</p> <p>学びへの飽くなき探求心を持つ 人材の育成</p> <p>自ら考え、自ら行動する力の育成</p> <p>未来を切り拓く力の育成</p>
-------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------

建学の精神

国際社会で活躍するリーダーの育成を目指す学校

質の高い学習により高い学力を習得できる学校

6年間の一貫教育で健全な心身をはぐくむ学校

生徒が互いに切磋琢磨し、常に活気にあふれている学校

教育課程編成の方針

- *ア 自らを律しつつ、他者と協調し、他者を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を養う。
- *イ アクティブラーニングを取り入れた学習活動を展開し、基礎基本、思考力、判断力、表現力などを養う。
- *ウ 9教科の基礎学力をバランスよく身につけることを重視した、教育活動を展開する。
- *エ 国際社会で活躍できる語学力、コミュニケーション力を養う。
- *オ 社会的、職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を養う。

語学力

問題発見
解決能力

人間関係
形成力

子どもの学びを育むために



総合的な学習の時間【EGG】を土曜授業を活用して展開

EGG全体計画について

Explore さがす (学びの追究、課題さがし)
Grasp つかむ

(自己の可能性の発見、他者との学びによる確かな理解)

Grow のびる (最終的な人間的な成長)

EGG体験

豊かなコミュニケーション能力を育成する交流体験や研修

EGGゼミ

「課題発見・解決能力」「論理的思考力」を育成する多様な言語活動、調査、研究、発表活動

EGG講座

幅広い教養と社会性を育成し、将来の進路への興味・関心を引き出すための講座

EGG体験 コミュニケーションのスキルを学ぶ



英語集中研修



イングリッシュキャンプ



問題発見解決力 EGGゼミ

様々な方法で表現する力を身に付ける
～EGGゼミ発表会～

「説明する」という言語活動を意識的に行う



1年後期「ポスターセッション」



2年前期「芸術的な作品の制作」



2年前期「英語によるスピーチ」



2年後期「学校紹介HPの作成」

「EGGゼミ」言語の能力を育成する
論理的思考力を育成する多様な言語活動や調査・研究・発表活動

〈1年生〉討議、インタビュー、スピーチ、レポート新聞の書き方などのスキルを学ぶ

〈2年生〉テーマ別のグループで調査・研究・発表を行う。

〈3年生〉個人で「卒業論文」を作成する。

問題発見解決力 EGG講座

幅広い教養を学ぶ講座

社会性を学ぶ講座



土曜日に実施している必修講座

EGG講座 そろばん教室(年8回)



EGG講座 横浜市大 国際理解講座

講師：上村延彦先生(横浜市立大学教授)



EGG講座 横浜市大医学部学生授業



EGG講座 消防士による防災講座



EGG講座 法教育(模擬裁判)講座



土曜日午後や長期休暇中に実施している選択講座

富士通パソコン分解講座

ソニーミュージックアニメ制作講座





●NPO 法人 ALARE

NPO法人ALAREの取り組み
～島根県雲南市「自分をつくる楽校」～

2016/03/12
Copyright © ALARE. All Rights Reserved.

ALARE

団体概要

NPO法人ALAREは、様々な社会人による中高生へのキャリア出張授業を展開しています。

名称	NPO法人ALARE
設立日	2012年3月1日 (2015年10月21日に法人格取得)
事業内容	中高生向けキャリア教育事業
ミッション	子どもたちに、将来の選択肢は多様にあることを示し、自分らしく生きることができるきっかけを創る
所在地	〒182-0036 東京都調布市飛田船1-30-2 402
役員	理事…大崎 兼史、渡部 麗大、石川 友理 監事…竹田 慎平

Copyright © ALARE. All Rights Reserved.

ALARE

活動実績

計20回、全国の中高生に対して社会人による出張授業を実施してきました。

2015年11月@若手県立北高校
2015年1月@徳島県池田高校
2015年3月@若手県立石市
2013年4月@大阪大学学生会共催『未来ソワソワプロジェクト』
2014年6月～2015年11月@島根県雲南市教育委員会共催『自分をつくる楽校』
2014年3月@神戸高校in東京
2014年1月@千葉県船橋高校
2013年4月@二番町明正ミニナール『中学生のためのハローワーク』
2013年10月@愛媛大学
2013年10月、2014年12月、2015年7月@夏休み夏見高校『暑休生のためのハローワーク』

Copyright © ALARE. All Rights Reserved.

ALARE

「自分をつくる楽校」の活動内容

雲南市の中高生が、多様な社会人と接する機会をつくる

Copyright © ALARE. All Rights Reserved.

ALARE

「自分をつくる楽校」の実施体制

- ・教育委員会を通じて、市内の中学校や高校と連携
- ・2015年度からは雲南市の社会人も連携

Copyright © ALARE. All Rights Reserved.

ALARE

「自分をつくる楽校」の特徴

- ① 多様な社会人との対話
…ITや農業、福祉、教育など様々な分野で活躍する社会人との交流
- ② 長期的なサポート
…単発開催ではなく、半年間毎月開催へ
→生徒の「自分で考え、行動する力」の育成を図る
- ③ 生徒の本音を引き出すこと
…社会人と生徒が1対2等の少人数制で話し合う
…社会人側の価値観や人生観についても、生徒と同じ目線で語り合う

Copyright © ALARE. All Rights Reserved.

ALARE

「自分をつくる楽校」の特徴
価値観ワークショップ

A. 

7 ALARE

「自分をつくる楽校」の特徴
価値観ワークショップ

B. 

8 ALARE

「自分をつくる楽校」の特徴
価値観ワークショップ

A. 

どこでもドア

B. 

タイムマシン

9 ALARE

「自分をつくる楽校」の特徴
価値観ワークショップ

A. 

どこでもドア
※移動範囲：日本国内のみ

B. 

タイムマシン
※滞在時間：1時間のみ

10 ALARE

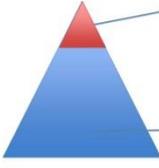
「自分をつくる楽校」の特徴
雲南市で行われているキャリア教育の延長線上に来るように設計

土曜日の充実と学社協働によるキャリア教育の推進
～中学生ALARE「自分をつくる楽校」～



11 ALARE

「自分をつくる楽校」の狙い



◆リーダー育成
雲南市の未来を担う人材の育成
→自ら課題を設定し、解決のための方法を創り出すことのできる人材を発掘し、育成する

◆全体の成長
雲南市の生徒全体の生き生きの向上
→学校生活での取り組み（学習・部活動）へ自分なりの目的意識を持って取り組める人材を育成する

12 ALARE

「自分をつくる楽校」の実施効果

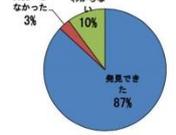
☆「仕事」「働くこと」について、感じていることはなんですか。(複数回答可)



13 ALARE

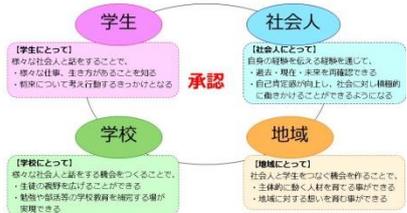
「自分をつくる楽校」の実施効果

☆教科書の勉強だけではわからなかったことを発見できましたか。



14 ALARE

私たちが大切にしていること



15 ALARE

●ミサワホーム株式会社

土曜学習フェスタ in 横浜
教育支援プログラム「南極クラス」



ミサワホーム株式会社
手塚 啓

なぜ、ミサワホームが南極と
かわりがあるのでしょうか？

■南極での建築実績

⇒1968年の第10居住棟以来
累計約36棟、延床面積約5,900㎡

基本観測棟
(2016～2018年)



仮組立

■南極への人員派遣

合計12名が(建築担当)設営系隊員として南極観測活動に参加

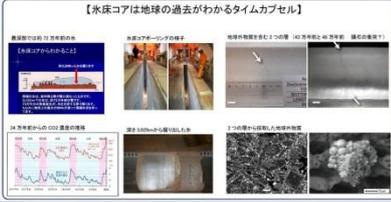
第17次(夏) 西島弘雄	第33次(夏) 南雲正輝
第38次(冬) 江藤久男	第39次(冬) 小羽宗之
第51次(冬) 秋元茂	第52次(冬) 渡邊慶太郎
第53次(冬) 堀川秀昭	第54次(冬) 中山忠孝
第56次(冬) 遠野智一	第57次(冬) 福田真人

《複数回参加者》
第47次(冬)・第50次(冬)・第52次(夏)・第53次(夏) : 井原英治
第51次(夏)・第52次(夏)・第55次(冬) : 坂下大輔



■南極昭和基地の環境条件

気象環境	最低気温: -45.3℃
	設計風速: 60m/秒
	最大風速15m以上の日数: 115日/年
輸送	輸送日数: 約45日(非連続・観測地帯通過)
	ヘリコプター輸送: 梱包寸法 長さ5.5m以内
	雪上輸送: 雪上車牽引ソリ輸送
建設	建設技術者の参加: 2～3名(他は素人の隊員)
	労働力: 最大延べ800人/年
	建設機械力・使用可能エネルギー: 制約が強い

<p>■南極観測でわかること — 2万年前の水から地球環境を考える —</p> <p>【氷床コアは地球の過去がわかるタイムカプセル】</p> 	<p>■『南極クラス』プログラム進行例 — 南極の水(映像+体験) —</p> 	<p>■『南極クラス』プログラム進行例 — 南極の水(映像+体験) —</p> <p>南極の水(氷山) のできるまで 1万年 かかる</p> <p>氷</p> <p>南極大陸 海</p>
<p>■『南極クラス』プログラム進行例 — 南極の水(映像+体験) —</p> 	<p>■『南極クラス』プログラム進行例 — 南極の動物たち(映像) —</p> 	<p>■『南極クラス』プログラム進行例 — 南極のオーロラ、星空(映像) —</p> 
	<p>■『南極クラス』プログラム進行例 — 子ども達にむけてのメッセージ —</p> <p>【堀川講師】 観測隊になる決断をした3つの気持ちが ありました。 「前向きな気持ち・一歩踏み出す勇氣・ 何でもチャレンジする」この3つの気持ちで 私は観測隊になることが出来ました。</p>	<p>■『南極クラス』お申込について</p> <p>「南極クラス」ホームページ をご用意しています。 『お問い合わせ』をクリックしてご記入</p> <p>費用は、南極水の着払い送料(2000円前後) 他は(講師料等)は不要です。</p> <p>土日祝日に関係なく実施しています。</p> <p>開催希望の2ヶ月前までにご連絡ください。</p>
<p>■「南極クラス」ホームページ URL: http://www.eco.misawa.co.jp/antarctic-class/</p> 	<p>皆様からのお申込を お待ちしております。</p> <p>ご清聴ありがとうございました。</p>	

●富士通コンピュータテクノロジーズ

<p>[土曜学習フェスタ in 横浜 事例紹介]</p> <p>FUJITSU Shaping tomorrow with you</p> <p>家族ロボット教室 「震災復興支援 家族ロボット教室」 「ものづくりを楽しもう 家族ロボット教室」</p> <p>2016年3月12日 (株)富士通コンピュータテクノロジーズ [FCT] 江口 かおる</p> <p>Copyright © 2016 FUJITSU COMPUTER TECHNOLOGIES LIMITED</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ■ 活動の目的と、教室の目標 ■ 教室の方針・特徴 ■ 教室の内容 ■ 教室学級の地域密着型体制 ■ 開催実績 ■ 参加者比率、参加者の声 ■ 活動の展開 ■ ご紹介ビデオ <p>「震災復興支援 家族ロボット教室」 ～子どもたちに将来の夢を～</p>	<p>「家族ロボット教室」とは</p> <p>FCTの家族ロボット教室の活動は、 東日本大震災の復興支援をきっかけに 2011年5月にスタートしました。</p> <p>現在は、FCTのCSR活動のひとつとして、 震災復興支援に加え、事業所近隣での開催や、 開催サポート等、活動を広げています。</p> <p>FCT社員のボランティアで成り立っています。</p> <p>Copyright © 2016 FUJITSU COMPUTER TECHNOLOGIES LIMITED</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

活動の目的と、教室の目標

■ 目的

- 東日本大震災の復興支援
 - 被災地の子どもたちに、将来の夢を持ってほしい
 - 目標をもつことで、充実した日々を送ってほしい
- 科学もものづくりへの興味の上
 - 理数系離れを少しでも食い止めたい
 - ものづくりの楽しさを知ってほしい
 - 将来の夢に科学やものづくりを含めてほしい

■ 目標

- 「なぜ?」「どうして?」から「こうしたらどうなる?」を通じて「やった!できた!嬉しい!」を体感してもらうこと
- 「楽しかったけど、楽しかった」「もう一度やってみよう」と感じてもらおうこと
- 科学やものづくりの環境が身近にあることを知ってもらうこと

教室の方針・特徴

■ 「答えを教わる」教室ではなく「考えて工夫する」教室である

- 必要に応じてアドバイスはするが、子どもが中心になって課題を解決する

■ 「オリジナルを作る」ことの楽しさを伝える

- 一からロボットを組み立てることで、工夫によって様々なプログラムが作れることを知ってもらい、ロボットを制御するプログラムは参加者の工夫を優先する

■ 目標を設けることで、目指す先を明確にする

- 最終にトーナメント形式のレースを実施し、子供たちの最終目標(レースでの快走、完走)を明確にして進める

■ 必ず「全員完走!」満足感をもって教室を終了する

- 「もう一度やってみよう」という満足感をもって終われるよう、講師、トレーナーが全力でサポートする

■ 科学・ものづくりを学ぶ環境が身近にあることを伝える

- 地元のお庁や学校の方々に携わって頂くことで、科学・ものづくりや、それを学ぶ環境が身近なものであることを実感してもらう

教室の内容

■ 教室の構成 :

- 3時間/回
- 3部構成
 - ロボットの組立て : 40分
 - プログラミング : 90分
 - トーナメント : 40分

■ ロボットの組立て : 40分

- 組立図と、パーツが入ったキットを使って自分専用のロボットを一つ一つ組み立てる
- 組み立て終わった人から講師が手直し、正しく組立てられたことを確認する
- モーターや光センサーが、インテリジェントブロックのどことケーブルでつながっているかを子どもと一緒に確認することで、それが何を意味するかを気づけていく

教室の内容

■ プログラミング : 90分

- ツールの使い方を教わりながら、「まっすぐ進む」「曲がる」「ジグザグに走る」といった課題をひとつずつ消化する
- 光センサーを使う段階から、黒白で大きく色分けされたシートと、白地に黒ラインで作成したコースを使用する
 - 課題は「白い間を前進し、黒をみついたら1秒間バックする」
 - 黒白で色分けされたシートは、黒の距離が長い(黒を認識してバックする確率が高い)ため、黒ラインで作成したコースの場合、プログラムによって黒と判断する前に白地に戻ってしまう、思い通りに動作しないこともある
 - 子どもは、シートの模様によってなぜ異なる動きになるのかを考え、黒い線でも黒と認識するようプログラムを改良していく
- 最終課題は、黒い線が引かれたコースを一周するプログラムの作成

教室の内容

■ トーナメント : 40分

- より確率により速くコースを一周するプログラムへの改良に着手
- 練習レースと、本番レースの2回開催する
 - 2回に分けることで、参加者1人1人のルールを把握してもらおうとす
 - 講師やトレーナーが、完走に向けてヒントを必要とする参加者を見極める

FCTの開発作業をなぞらえた「ものづくり」を体験する

産官学連携による地域密着型体制

参加者、参加、申込み、教室開催、ノウハウ共有、協力、NPO法人 WRO Japan、協力、NPO法人 WRO Japan、協力、岩手県、開校地域の教育委員会、開校地域、協力、岩手県立大学、一翠会、開校地域、協力、岩手県立大学、一翠会、開校地域、協力、岩手県立大学、一翠会

地域密着型で、確実性、拡張性、継続性のある教室を実現

開催実績 (岩手県内)

■ これまでに、延べ42回、計862組、1726人のご家族が参加

回	開催日	会場	組数	人数
1	2011/1/25	盛岡	15	37
2	2012/1/28	北上	16	31
3	2012/2/25	一関	11	21
4	2012/3/24	盛岡	11	20
5	2012/4/21	盛岡	8	15
6	2012/5/19	盛岡	24	46
7	2012/6/23	一関	27	51
8	2012/7/28	久慈	25	47
9	2012/8/19	盛岡	25	43
10	2012/10/27	大館	4	9
11	2012/12/1	盛岡南地区	14	29
12	2013/1/26	奥州	30	58
13	2013/2/22	盛岡	39	63
14	2013/3/23	盛岡	30	57
15	2013/5/11	二戸	11	21
16	2013/5/11	二戸	11	21
17	2013/5/11	二戸	11	21
18	2013/5/11	二戸	11	21
19	2013/5/11	二戸	11	21
20	2013/5/11	二戸	11	21
21	2013/5/11	二戸	11	21
22	2013/5/11	二戸	11	21
23	2013/5/11	二戸	11	21
24	2013/5/11	二戸	11	21
25	2013/5/11	二戸	11	21
26	2013/5/11	二戸	11	21
27	2013/5/11	二戸	11	21
28	2013/5/11	二戸	11	21
29	2013/5/11	二戸	11	21
30	2013/5/11	二戸	11	21
31	2013/5/11	二戸	11	21
32	2013/5/11	二戸	11	21
33	2013/5/11	二戸	11	21
34	2013/5/11	二戸	11	21
35	2013/5/11	二戸	11	21
36	2013/5/11	二戸	11	21
37	2013/5/11	二戸	11	21
38	2013/5/11	二戸	11	21
39	2013/5/11	二戸	11	21
40	2013/5/11	二戸	11	21
41	2013/5/11	二戸	11	21
42	2013/5/11	二戸	11	21
合計			862	1726

開催地域

参加者比率

■ 学年別参加者比率

3年 20%
4年 37%
5年 25%
6年 18%

■ 性別参加者比率

男 63%
女 37%

■ 学年別比率

- 小学校3年生から6年生まで、ほぼ万遍ない比率

■ 性別比率

- 男子が8割以上
- 小学生男女の場合、需求が非力なためロボット組立時に手取ることもあるが、アシスタントや家族でフォロー可能
- プログラミングやトーナメントでは男女の差、学年の差は感じられない

参加者の声

■ 楽しかったこと

レース 38%
組立 34%
プログラミング 28%

■ 楽しかったこと、難しかったこと

楽しかったこと、難しかったこと 34%
ない 66%

■ またやってみよう?

はい 58%
いいえ 2%
どちらでもない 34%

■ 参加者の98%が「またやってみよう」と回答

開催後の声

■ 子どもたちの声

- 思わず楽しかったけど、楽しかった
- 自分でロボットを作るなんてびっくりした
- まげたくやしかった。つぎはつうしよする
- すごく楽しかった。パソコンでプログラミングするのがすごくはじめてした
- 今回お話しして、思ったとおりに走ったのが最高にうれしかった
- 家でもロボットを作りたい。すごく楽しかったから、また参加したい
- なぜ黒い線の上を走るのか、不思議だったのがわかってよかった

■ 家族、施設関係者の声

- 自分より子どもの方が理解が早かった。随分成長してきている
- 最近子どもと遊んでやれていなかったことに気づいた。こんなにたくさん子どもと話したの久しぶりだった
- 二人の心からの笑顔が久しぶりに見た感じがする(FCFより参加中の小学生のおおあさん)
- 小学生3時間という長時間の講座を開催したのは初めて。長すぎて無理と思っていたが、子どもたちが最後まで夢中になって作業していたびっくりした。(開催施設関係)

活動の展開 (地域貢献)

■ 2013年12月より、FCTの事業所がある愛知県豊橋市、長野県長野市等でも開催開始

回	開催日	会場	組数	人数
1	2013/12/14	豊橋	24	46
2	2014/3/29	長野	27	54
3	2014/6/21	豊橋	27	64
4	2014/10/18	長野	12	25
5	2014/11/15	豊橋	28	58
6	2014/11/29	豊橋	25	53
7	2014/12/6	長野	23	52
8	2015/2/14	豊橋	28	56
9	2015/3/28	長野	15	32
10	2015/4/12	豊橋	28	60
11	2015/4/17	豊橋	21	41
12	2015/10/17	豊橋	25	52
13	2016/1/24	川崎	12	29
合計			296	627

岩手開催を含めた全合計 1,195 2,431

ご紹介ビデオ

■ FujitsuBrandChannel

https://www.youtube.com/watch?v=1SazqEztZ_g

■ FCTホームページ

<http://www.fujitsu.com/jp/group/fct/resources/features/tories/founding/challenge/activity/familyrobot.html>

FUJITSU
shaping tomorrow with you

□第2部 「鼎談」 14:30~15:30

役割	所属	役職	氏名
鼎談者	文部科学省 大臣官房審議官	初等中等教育局・高大接続担当	伯井 美德
	横浜市立南高等学校附属中学校	学校長	高橋 正尚
コーディネーター	株式会社キャリアリンク	代表取締役	若江 眞紀

「地域に開かれた学校のために ～学校教育・社会教育におけるカリキュラムマネジメントの重要性～」

まず、土曜日の教育活動や土曜学習フェスタの取り組みについて説明。横浜市で取り組みは、横浜市立南高等学校附属中学校に全面的に組み込まれた「土曜日の教育活動」であり、学校教育と社会教育の連携の在り方を考える機会とし、これまで横浜市の教育委員会の教育長として取り組んできた、現文部科学省の伯井審議官と社会とつながる教育課程を先駆けて取り組んでいる高橋校長の2者から話が展開した。



●日本の教育、指導要領は、どのように変わろうとしているのか

2020年に向けて、次期学習指導要領の検討が前倒しで進められ、知識・技能ベースから、社会で自立するうえで 必要な資質・能力を特定し「どんな子供に育てたいのか」をめざすスキル育成ベースの教育指針が示されようとしている。同時に平成27年4月 中央教育審議会への諮問の「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働のあり方について」の答申では「社会に開かれた教育課程」について学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させるとある。

今は、予測不可能な時代になっており、何を学校で学ぶべきかが重要となる。知識・技能が求められる＝知識を再生するだけではなく、柔軟な物の考え方、多面的に物事を考える力が必要となる。そのためには、「社会に開かれた教育課程」が重要であり、学校だけではその実現は難しい。地域・社会とつながることで、子ども達の経験値を増やしていく必要がある。そして、小学校・中学校・高等学校・大学それぞれ単独ではなく、校種間も連携し、全面的に・連携し合いながら変革する必要がある。

南高等学校附属中学校では、社会とつながる取り組みを既に実践できている。どのような変化があるのか。南高等学校附属中学校では、それぞれの教科の学習と社会とつながる総合的な学習の時間の両輪を進めることで、豊かな人間性、社会性が築かれると考えている。総合的な学習の時間（EGG）では、本物に触れること、そして将来の職業選択の興味関心を引き出すことという2つの側面がある。EGG体験、EGGゼミ、EGG講座の3つのやり方で人間性や社会性、職業観、探究心を育成している。生徒たちには感想を書いてもらい、学びの変容を図っている。EGG講座は学力向上をねらい、中学1年生に行

うことが多い。

●社会教育との連携＝学校と地域との協働の在り方について

土曜日の教育活動を行うためには、教育課程がしっかりしていることが重要である。教員の負担を減らすためには、マニュアルにできるところはマニュアルにする、外部人材は長期契約を行うことなどをし、仕組化にすること等が重要である。



社会に開かれた教育を実現するためには、何が必要なのか。たとえば、土曜日の教育活動を行っている学校は、約50%である。意義を理解したり、やろうとしている場所は半数近くあるが、土曜日の授業として実施するためには、振替（代休措置）が必要であり、土曜学習や課外授業として、外部の人を連れてくるならば、外部と連携する仕組み（支援本部や教育委員会からのバックアップ）があれば進みやすいと思われる。

社会とつながる教育課程における成果はどうか。時間はかかるものの、子ども達からのアンケート結果（社会とのつながりの優位性について）を見ると、全国平均よりも高い位置にあり、教科としても同じように高い位置にあるのではないかと。

●社会との連携のための「カリキュラムマネジメント」について

系統立てたカリキュラムや社会とつながる教育課程は、附属中学校だからできたことなのかといえそうではない。カリキュラムマネジメントがしっかりできれば可能である。カリキュラムマネジメントは、一般的に言われていることであるが、きちんと現状分析・現状把握をすること。具体的な計画を立て、実行すること。そして改善すること。

社会に開かれた教育課程を実現するためには、校長のリーダーシップの向上、教職員の負担の軽減、地域学校協働本部の設置、意識変革のための教員養成や教員研修の実施という大きな環境整備を行う必要がある。全包围網で教育改革を進め、物事を俯瞰して見ながら進めていくことが、管理職だけでなく現場の教員も理解しておくべきである。

《事例発表者スライド》

●文部科学省(伯井氏)資料

108.3.12 土曜学習フェスタ in 横浜

地域と学校の連携・協働について

- 土曜日の教育活動について……………1～3
- 新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた、学校と地域の連携・協働の在り方や今後の推進方策について（中数量査申）……………4～6、12～18
- これからの教育課程について……………7～11
- 「次世代の学校・地域」創生プラン（藍プラン）について……………17～22

文部科学省
資料1

全国の土曜日の教育活動の実施状況(平成27年度)

学 年	平成27年度(実施割合)	学 年	平成27年度(実施割合)
小学1～6年	4,271校 (22%)	小学1～6年	3,811校 (20%)
中学1～3年	2,209校 (23%)	中学1～3年	556校 (6%)
高等学校	243校 (7%)	高等学校	1,324校 (37%)
計	7,284校 (22%)	計	2,821校 (8%)

学 年	平成27年度(実施割合)	学 年	平成27年度(実施割合)
小学1～6年	6,922校 (34%)	小学1～6年	6,572校 (16%)
中学1～3年	1,662校 (17%)	中学1～3年	2,912校 (4%)
高等学校	911校 (22%)	高等学校	6,856校 (19%)
計	9,495校 (28%)	計	12,730校 (37%)

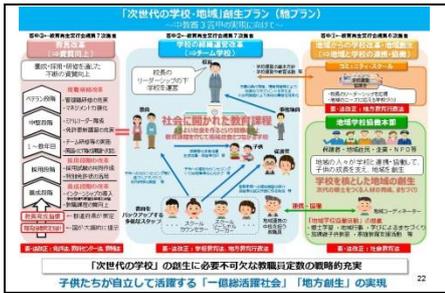
◆「土曜授業」、「土曜の課外授業」、「土曜学習」をいずれか一つでも実施
⇒ 約16,000校(約90%)の学校や地域で実施

土曜日の教育活動推進プラン

平成28年度予算案のポイント

- 1 地域のなかで教育活動を進め、土曜日の教育活動の推進
- 2 土曜授業推進事業の拡充

資料2



●横浜市立南高等学校附属中学校(高橋氏)資料

<p>土曜学習フェスタin横浜</p> <p>「地域に開かれた学校のために」 ～学校教育・社会教育におけるカリキュラム マネジメントの重要性～</p> <p>横浜市立南高等学校附属中学校 校長 高橋 正尚</p> <p>Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School</p>	<p>1 プロフィール</p> <p>帝人株式会社に勤務後、 千葉県内の小学校教諭、 横浜市内の中学校教諭、副校長・校長、 市統括校長、横浜市教育委員会首席指導主事 (指導部高校教育課)、 を経て平成23年10月から現職。 専門は、教育経営学、教育法規、特別活動 及び中高一貫校の研究。</p> <p>Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School</p>	<p>1 プロフィール</p> <p>○未来を担う横浜の子どもたち一人ひとりを徹底的に大切に教育を心を込めて行う学校として欲しい。 ○分かりやすい、楽しい授業を第一に考えて欲しい。 ○前例に促われず、明確で分かりやすい学校経営の目標を掲げ、教職員と一体となって、教育の質の改善・向上に努めて欲しい。 (平成17年4月1日 「新たに校長になられる皆さんへー7つのお願いー」より 教育長 伯井 美德)</p> <p>Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School</p>
<p>1 学校運営の考え方</p> <p>横浜市で制定 教育目標 目指す学校像 学校で制定 教育課程編成の方針</p> <p>各教科授業 EGG 道徳 グローバル人材育成 体験 ゼミ 講座</p> <p>Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School</p>	<p>1 教育目標</p> <p>建学の精神</p> <p>学びへの飽くなき探求心を持つ 人材の育成</p> <p>自ら考え、自ら行動する力の育成</p> <p>未来を切り拓く力の育成</p> <p>横浜市で制定</p> <p>Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School</p>	<p>1 目指す学校像</p> <p>建学の精神</p> <p>国際社会で活躍するリーダーの育成を目指す学校 質の高い学習により高い学力を習得できる学校 6年間の一貫教育で 健全な心身をはぐくむ学校 生徒が互いに切磋琢磨し、常に活気に溢れている学校</p> <p>横浜市で制定</p> <p>Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School</p>
<p>1 教育課程編成の方針</p> <p>ア 自らを律しつつ、他者と協調し、他者を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を養う。 イ アクティブラーニングを取り入れた学習活動を展開し、基礎基本、思考力、判断力、表現力などを養う。 ウ 9教科の基礎学力をバランスよく身につけることを重視した、教育活動を展開する。 エ 国際社会で活躍できる語学力、コミュニケーション力を養う。 オ 社会的、職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を養う。</p> <p>Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School</p>	<p>1 教育課程編成の方針</p> <p>バランスの良い学びの実現</p> <p>言語活動・コミュニケーション活動を重視した学習活動</p> <p>参加型学習・体験型学習を取り入れた学習活動</p> <p>豊かな人間性 & 社会性</p> <p>Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School</p>	<p>1 教育課程編成の方針</p> <p>教育課程編成の方針よりアクティブラーニングを取り入れた授業の実践 ⇒全教科を通して、論理的な「思考力・判断力・表現力」を育てる授業の実践 ⇒「覚える」授業から「考える」授業への転換 ⇒学校全体の言語環境を整える。</p>

1 教育課程編成の方針

教育課程編成の方針等の具現化の一環としてEGGの実践及び教科との関連

講座を通じて社会との繋がりをもつ機会の提供。

体験を通じてアクティブラーニングが実践できる集団形成。人間関係づくり、コミュニケーション力の育成。

ゼミを通じてアクティブラーニングの技法を学ぶ。

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 学校教育と社会教育の連携

外部講師の活用 (企業、大学教員、NPO法人、そらぼん協会、公務員、企業OBなど)

EGG

授業視察や研修など教員育成の場の提供

外部人材の育成

学校

外部講師(大学教員、教員OB)の活用

教員志望の大学生の受け入れ

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 教育課程内の土曜授業(全員必修)

年間16日 授業時数4×16日=64時間

EGG(総合的な学習の時間) 32時間
教職員+外部講師

学習活動 32時間
教職員+外部講師

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 土曜日の課外授業(希望者)

土曜日の午後の有効活用

数学特別講座 年間15回程度 (1回3時間)
外部講師 (校長OB)

英語特別講座 年間4回 (1回3時間)
外部講師 (大学教授)

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 EGGの実践(EGG講座)

EGG講座

「幅広い教養と社会性」を育成

様々な分野の「本物」に触れる

将来の進路選択への興味・関心を引き出す

教養と社会性の育成

必修講座(1年生4講座、2年生1講座)
選択講座(1, 2年生で17講座)

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 EGGの実践(EGG講座 選択講座一覧)

- TBSテレビ出張スタジオ
- CATCH YOUR DREAM
- 富士通パソコン分解講座
- NCN海外留学講座
- 東京ガス燃料電池講座
- 横浜市大医学部体験講座
- ソニーミュージックアニメ制作講座
- 東大海中ロボット講座
- ソニーモバイル携帯デザイン講座
- 法教育(模擬裁判)講座
- JAXA相模原キャンパス講座
- JAXA筑波宇宙センター講座
- フィナンサーパーク
- 動物園飼育員体験

参加型学習・体験型学習を取り入れた能動的な学習活動を展開する。

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 EGGの実践(EGG体験)

EGG体験

「豊かなコミュニケーション能力」を育成

プロジェクトアドベンチャー

各種コミュニケーション研修・講座

イングリッシュキャンプ

英語英語集中研修

培われたコミュニケーション能力を発揮

カナダ研修旅行

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 EGGの実践(EGG体験)

豊かな人間関係づくりや社会性を育成する取組

活動名	時期
プロジェクトアドベンチャー	入学して1週間
グループエンカウンター研修1	入学して2週間
コミュニケーション研修1	入学して1か月
コミュニケーション研修2	入学して半年
グループエンカウンター研修2	入学して約1年後

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 EGGの実践(EGGゼミ)

EGGゼミ

「課題発見・解決能力」「論理的思考力」を育成

言語の能力を育成する

論理的思考力を育成する多様な言語活動や調査・研究・発表活動

探究的な学習を通して、課題解決に必要な論理的思考力や技能(スキル)を身に付ける

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 EGGの実践(EGGゼミ全体の流れ)

学年	内容
1年生	討議、インタビュー、スピーチ、レポート、新聞の書き方などのスキルを学ぶ ポスターセッション
2年生	テーマ別のグループで調査・研究・発表を行う。本日午前実施
3年生	個人で「卒業論文」を作成する。

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 EGGの実践(EGGゼミ 1年生)

1年生

前期	「世界を幸せにする第一歩」個人新聞にまとめる	KJ法 情報収集をする 集めた情報を整理する 新聞にまとめる
後期	前期調べたことをグループで実践 個人レポート グループでポスターセッション	問題の序列化 情報収集をする 図表等を用い整理、分析 ポスターセッションでまとめる

本日午前実施

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 EGGの実践(EGGゼミ 2年生)

2年生 クラスごとに年間4つの探究学習

1	芸術的な作品の制作	ウェビングを用い課題設定 フリップボードで情報収集 発想を用い整理、分析 作品作成でまとめ、表現
2	ホームページの作成	体験を対して課題設定 実践、観察を通じて情報収集 フリップボードで整理、分析 HPでまとめ、表現
3	英語でのプレゼンテーション	資料を比較して課題設定 ファイルに情報を収集する ペーパーで整理、分析する プレゼンテーションでまとめ、表現
4	ミニ論文集作り	グラフの推移を予測して課題を設定 電子メールで情報を収集する スクラップボードで整理、分析する ミニ論文にまとめ、表現

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

2 EGGの実践(EGGゼミ 3年生)

3年生

卒業研究を行う

- 前期で調査研究を行い、中間発表会を実施、意見交換
- 卒業研究発表会を実施(全員が2年生対象に発表。一人20分質疑応答10分)

これまでの学習や身に付けたスキルを活用して個人で選択、課題設定

これまでの学習や身に付けたスキルを活用して個人で選択、情報収集

これまでの学習や身に付けたスキルを活用して個人で選択、整理・分析

シンポジウムでまとめ、表現

卒業論文(A4 20枚以上を作成する)

本日午前実施

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

3 土曜日の教育活動を通した生徒の変容

生徒の感想

【日輝グローバルリーダープログラム】

・日輝には外国人の人がたくさん働いていた。社員一人一人が本当に楽しそうに働いていていい職場であった。近年グローバル化の中で、最先端の会社であると思う。国、人種、宗教の違いを乗り越えた職場をみる事ができた。

【横浜市立大学医学部体験講座】

・先生方がとてもフレンドリーだった。話が難しくてもきちんと解説してくれたり、わかりやすく言ってくれた。普段はめったに使わないような機器の操作もできて、貴重な体験になりました。

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School

3 土曜日の教育活動を通した生徒の変容

生徒の感想

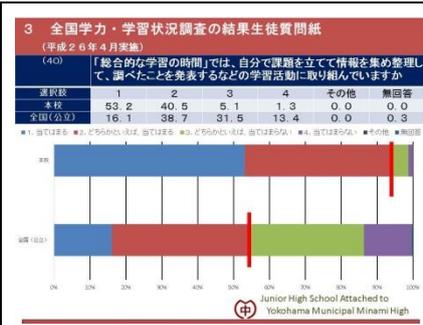
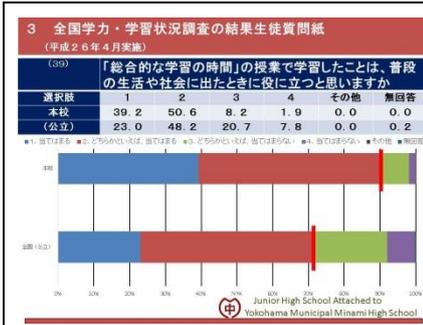
【JACAグローバルリーダープログラム】

・今の世界の状況を具体的な数値を用いて何がどのような過程でどうなっていくのかを詳しく説明してくれました。また、自分の仕事を「やりたい」で決めるのではなく、「誰かの役にたつ」で選んでもよいのではという新たな考え方が生まれ参考になった。

【TBS出張スタジオ】

・普段何気なく見ているニュースが画面には見えていない沢山の人の協力と熱意で成り立っていることがわかった。「支え合う仕事」について学びました。

Junior High School Attached to Yokohama Municipal Minami High School



3 土曜日の教育活動の成果

【成果】

- 社会で必要とされるスキルを知ることで、学習に対してのモチベーションが高まる。
(授業を大切にしている態度、高い志をもちあきらめないで取り組む態度、苦手な教科を克服する前向きな態度等)
- 体験することによって視野が広がる。(グローバルな考え方、社会貢献の重要性等)

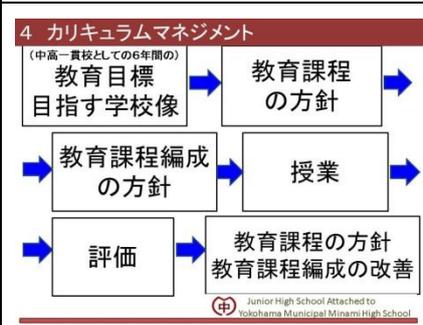
Junior High School Attached to
Yokohama Municipal Minami High School

3 土曜日の教育活動の成果

【成果】

- 目標をもって学校生活を送るようになり、キャリア教育が将来の職業選択に繋がる可能性がある。
- 協力して物事を進めることの大切さを学ぶことができる。(異なった考え方との調整、異文化理解等)
- 課題解決の重要性に気づく。(問題解決の方法や仕事の進め方などを学ぶことによって、自分の学習方法を見直す等)

Junior High School Attached to
Yokohama Municipal Minami High School



4 カリキュラムマネジメント

- ◎ 荒れた学校を短期間で正常な状態に戻す。
- ◎ 部活動で全国大会に出場させる。
- ◎ 学力向上プランを作成して生徒の学力をあげる。

現状分析 ⇒ 企画・計画 ⇒ 実行 ⇒ 評価 ⇒ 改善 (PCDAマネジメント)

**組織力 短期計画 1年 中期計画3年
スピード問題解決
チームで対応(チーム学校)**

Junior High School Attached to
Yokohama Municipal Minami High School

4 カリキュラムマネジメント

学校運営には

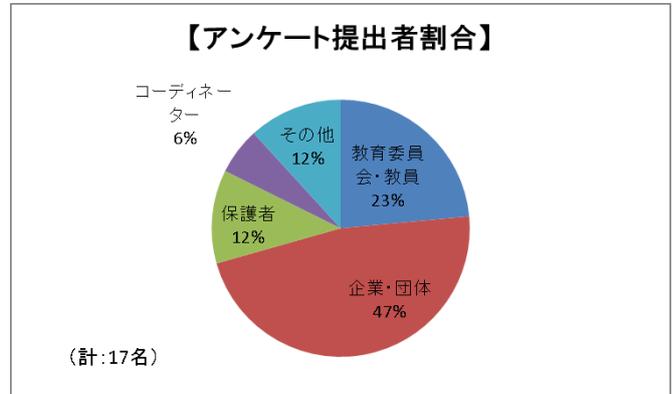
- 「開かれた学校づくり」と 「地域の参画」
- 市民に信頼される学校づくり
→ 学校評価には生徒、保護者、市民の評価が大切

Junior High School Attached to
Yokohama Municipal Minami High School

□アンケート結果

<参加者分布>

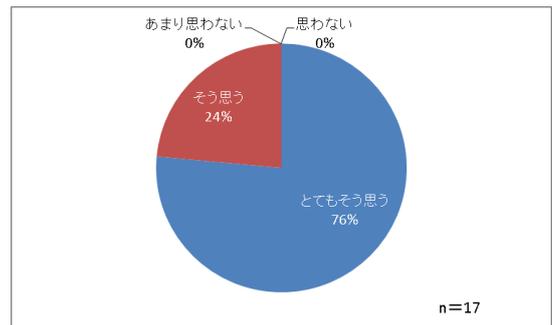
区分	人数
教育委員会・教員	4名
企業・団体	8名
保護者	2名
コーディネーター	1名
その他	2名
合計	17名



●「土曜日の教育活動」の理解について

「土曜日の教育活動」には、①土曜授業②土曜の課外授業③土曜学習（教育委員会の管理下／NPO等民間活動）など、さまざまな形態があることがわかった

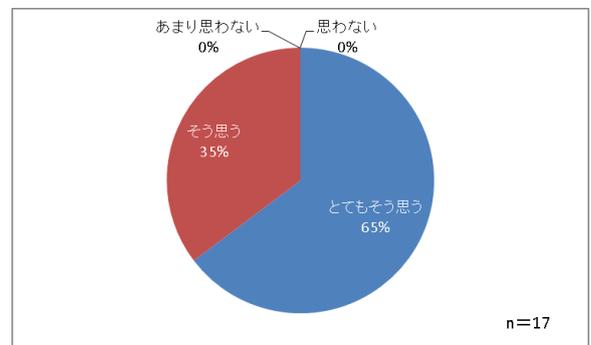
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディ ネーター	その他
とても そう思う	13名	3名	7名	2名	1名	0名
そう思う	4名	1名	1名	0名	0名	2名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	17名	12名	8名	21名	2名	13名



●「土曜日の教育活動」の意義について

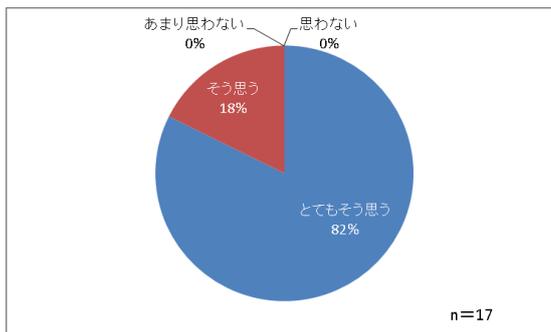
学校、家庭、地域が連携協力することで多様な教育の場が生まれると思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディ ネーター	その他
とても そう思う	11名	2名	6名	2名	1名	0名
そう思う	6名	2名	2名	0名	0名	2名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	17名	12名	8名	21名	2名	14名



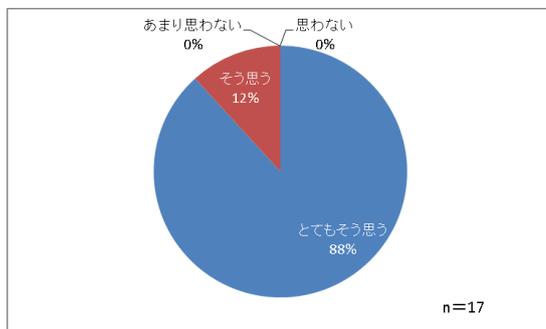
地域や企業が学校で出前授業等を実施することは、子どもたちの学びに有効だと思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても 思う	14名	2名	7名	2名	1名	2名
思う	3名	2名	1名	0名	0名	0名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	17名	12名	8名	21名	2名	14名



地域全体で子どもたちを育むために、今回のような取組みは今後も必要だと思う。

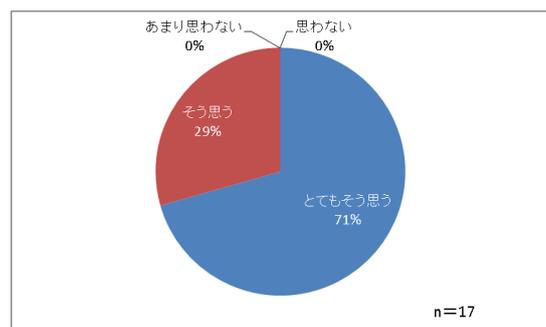
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても 思う	15名	2名	8名	2名	1名	2名
思う	2名	2名	0名	0名	0名	0名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	17名	12名	8名	21名	2名	13名



● 「土曜日の教育活動」への協力について

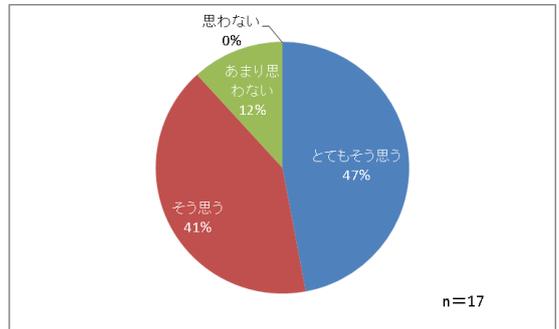
学校から要請があれば、自分もできることから「土曜日の教育活動」に協力したいと思う。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても 思う	12名	2名	7名	1名	1名	2名
思う	5名	2名	1名	1名	0名	0名
あまり 思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	17名	12名	8名	21名	2名	14名



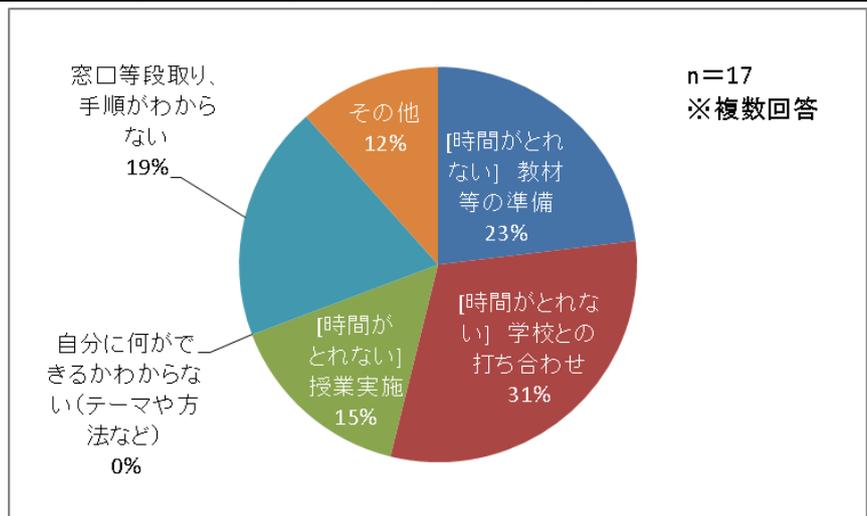
学校から要請があれば、自分も「土曜日の教育活動」の講師ができる分野があるかもしれないと思った（スポーツ、書道、料理など）。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
とても 思う	8名	1名	6名	0名	1名	0名
思う	7名	2名	2名	1名	0名	2名
あまり 思わない	2名	1名	0名	1名	0名	0名
思わない	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	17名	4名	8名	2名	1名	2名



「土曜日の教育活動」への協力について、課題となることは何ですか。（複数回答可）

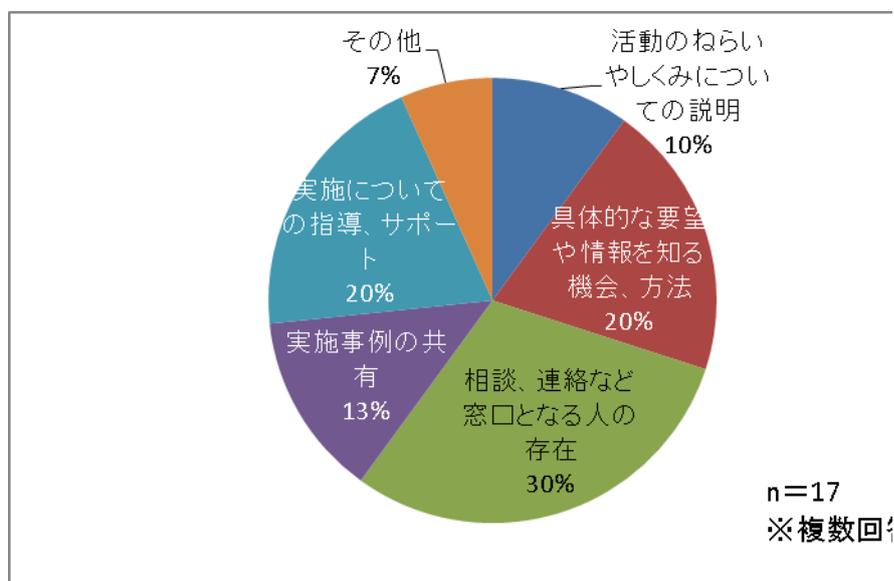
	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
[時間がとれない] 教材等の準備	6	2	1	1	1	1
[時間がとれない] 学校との打ち合わせ	8	3	3	1	0	1
[時間がとれない] 授業実施	4	2	0	1	0	1
自分に何ができるかわからない (テーマや方法など)	0	0	0	0	0	0
窓口等段取り、手順がわからない	5	2	2	0	1	0
その他	3	0	1	2	0	0
合計	26	9	7	5	2	3



「土曜日の教育活動」に協力いただくために、必要な情報やしぐみは何ですか。

	合計	教育委員会 教員	企業・団体	保護者	コーディネーター	その他
活動のねらいやしぐみについての説明	3	1	1	1	0	0
具体的な要望や情報を知る機会、方法	6	0	4	1	1	0
相談、連絡など窓口となる人の存在	9	3	5	0	1	0
実施事例の共有	4	1	3	0	0	0
実施についての指導、サポート	6	0	3	1	0	2
その他	2	1	0	1	0	0
合計	30	6	16	4	2	2

t



●今後、「土曜日の教育活動」に期待することやご意見等をお教えてください。

- ・教科外のテーマをもとに、子ども達の視野を広げるプログラムを期待しています。福島県いわき市では、土曜学習が指定された学校において行われています。コーディネーターが公民館の館長さんが行っているため、ニーズにばらつきがある。
- ・土曜学習応援団に参加しており、支援活動をしたいが、相談するコーディネーターがどこにいるのかわからず何も進展しない。

-
- ・より多くの学校で実施をして欲しい
 - ・南高校長から「横浜は国際貿易港として」とお言葉ありました。今後、海運関係と連携していけたらと期待します。
 - ・学校教育・社会教育の垣根を取り払った包括的な取り組みを期待しています。
 - ・私は建設会社の社員ですが、ビルやインフラ建設に限らず、ものづくりに興味を持つ若者が減っており、危機的状況です。ものづくりのやりがい、楽しさを学べる場にもしていただきたい。
 - ・糸のこ工作のすすめ 電動工具ではありますが、すべての小学校の図工室にあります。一人一台にすると、1時間でも2時間でも座って取り組むので、極めて安全です。4年間毎週水曜日に指導しましたが、事故はゼロ。小黑三郎さんの図案を使うと喜んで取り組みます。小黑さんとはおつきあいをさせてもらっていますが、積極的に協力したいとのことです。
 - ・親が通常の中学生生活（学習会）では知り得ない、生きた情報、学習を期待します。
 - ・必要だと思う。なぜ土曜日なのか、土曜日だからできることは何か、もう少し土曜日の価値を見出したいと思いました。何かありそうなのですが、自分でもまだ見つけられていないというか、単に「使える時間が増えた」ではもったいないような気も…

●その他、本日ご参加されてのご意見、ご感想等、ご自由にご記入ください。

- ・とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・チーム学校の事例を具体的にどのようなタイミングでどんなアポイントの仕方で運営しているのか知りたかった。貴重なお話ありがとうございました。
- ・富士通さんの発表についても資料があるとよかったと思います。フォーラムのねらいと発表内容の結びつきが薄い印象をうけました。
- ・学校現場が社会に開かれた教育を目指している現状が良く分かった。
- ・参加してとても良かった。
- ・ありがとうございました。
- ・第一部に参加して 久しぶりに「総合的な学習の時間」に参加しました。1年生では、3組8班の「三つ池と二つ池の違い」の発表に長くいました。母校である末吉中学校の隣にある三つ池と同じ鶴見区にある二つ池を比較するという発想が私に全くなかったのととても興味深く聞きました。兵庫県神戸市の「玉ーアクアリウム」の子どもたちが、20年近く外来種の生物を駆除し、在来種主体の環境にもどってきたという報告を聞き、外来種の駆除は必須と結論づけていたのですが、積極的に駆除をしている三つ池より、ほったらかしの二つ池の方が在来種が多いという結果は意外でしたが、示唆に富んだ調査でした。3年生では、「横須賀に人を呼び込む為に私達ができることは何か」の論文に感心しました。横須賀市が人口減少率日本一だということを初めて知りました。それに対し、佐藤さんは打開数いくつかのアイデアを提案しています。私が特に驚いたのは「貸し漁場」という全く新しいアイデアです。私はその場で検索してみましたが、同様の活動は見当たりませんでした。「貸し農園」から発想を得たと書いてありますが、すごい！

第二部に関連して 教員時代の平成5年頃、東京都が教員の自主研究を対象に助成制度があったので、「昭和50面台の教員が社会貢献した事例」を調査、報告しました。具体的には当時の教員が上の命令ではなく、自主的に在籍数学校に少年サッカーチームを組織し、近隣の小学校同市で試合を通して技術を高めたのです。そして週休2日制が定着すると、主体は地域の親たちにパトナッチされます。私は土日に野外体験や農業体験する方に力を入れていたのですが、あの当時の教員の頑張りがあったので、今のリーグの盛り上がりがあるのは確かです。各市に2、3人個人で大型バスを購入し、自ら運転して子ども達を試合に連れて行く教員もいました。今は全く見られないのは地域へのパトナッチが完了し

たことと、教員自体に時間の余裕がなくなったことが大きいと思います。

- ・当社は社外学習の場として建設現場を提供していきたいと考えておりますので、参加者を募る場としても土曜学習応援団を活用させていただきたいと思います。
- ・ミサワホームや富士通のお話は興味深かったです。鼎談は改めてこの学校の在り方を知ることができ、この学校で学べることをとても有難く思います。コミュニケーション、社会性、そして9教科のバランス良い学習は他の公立にない良いと思いました。
- ・カリキュラム化 カリキュラムの精度、やはり大事だと思いました。あとしくみづくり。教育改革のとらえ方、全体像の把握。

土曜学習フェスタ実施報告書

主催：文部科学省

企画：株式会社キャリアリンク

発行：2016年5月
